

# 平成 27 年度 事業 報 告

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

---

## I 法人本部

---

平成 28 年 3 月 31 日、「社会福祉法の一部を改正する法律」が可決、成立した。役員等体制の見直しや会計監査人による監査の導入など、社会福祉法人に変革が迫られている。

本年度の新たな事業展開としては、ずっと定員超過で新規利用の受け入れに苦慮していた放課後等デイサービスの 2 号店として「わくわくステップ」を港区に開所した。

人材育成においては、平成 26 年度から導入した新しい人事考課制度について改善点を吟味し、人事考課と事業年度のサイクルを合わせるなど平成 28 年度から一部改善につなげた。また、今年度から導入した「グローイング・アカデミー」は年間延べ 242 名が受講。一定の効果があつたと判断し、来年度は更に効果が上がるよう工夫をすることを前提に継続契約した。

法人による一括採用の取り組みも始動した。職員採用専用サイトの開設や、主に新卒者をターゲットとして大手求人情報サイトを活用した大学生の求人、法人説明・見学会や面接を始めている。

昨年度終わりに発足した法人創立 70 周年記念事業委員会は、「ひとりの幸せのために～挑戦！ 創造！ 貢献！～」をテーマに記念式典、記念誌、企画の 3 チームで企画・準備を進めている。

名古屋盲人情報文化センターで実施が難しくなり本部に移管した「同行援護従業者養成研修」は、光和寮拠点の視覚障害者支援室を中心に再開。

課題になっていた法人内監査も再開した。本部職員等が各拠点をまわり経理や決済手続き関係を中心に監査を行った。

昨年 10 月から配布が始まったいわゆる「マイナンバー制度」への対応を検討、仕組みを構築し番号の収集、管理を開始した。

また、人材育成や財務など様々な情報交換を目的として、社会福祉法人ゆたか福祉会、社会福祉法人愛光園との情報交換、交流会を開始。1 回目の顔合わせを行った。今後につなげていきたい。

かねてからの課題であつた「法人本部の機能強化」に向けて、平成 28 年 6 月に新たな会議体「法人運営会議」が発足する。中長期の事業計画や公益的な取り組みの推進など法人に課せられた課題は多いが、ここを中心に推進していく。

# 1 経営実施状況

## (1) 諸会議

### ア 理事会の開催状況 (計5回)

平成27年5月1日(金) 午後2時00分	
議案	第1号議案 放課後等デイサービス事業所の新規開設について
主な発言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容はテーマを持ち社会参加型であることが重要であり、他施設との連携が必要。</li> <li>・27年度事業計画にもあるが予算の承認を受けたか。事業所開設の審議が承認されても、理事会で予算が承認されなければ支払いができないので承認を受けること。</li> </ul>
平成27年5月22日(金) 午後3時45分	
議案	第1号議案 就業規則、経理規程の変更について 第2号議案 平成26年度事業報告・決算(案)について 第3号議案 積立金について 第4号議案 評議員の選任について 第5号議案 視覚障害者支援室の立ち上げについて 第6号議案 平成27年度第1次補正予算(案)について 第7号議案 光和寮土地の取得に向けた借入金について 第8号議案 緑風の新棟建設事業と設計管理業者について
主な発言	(第5号議案について) ・名古屋盲人情報文化センターはじめ法人内他施設(瀬古第二マザー園、クリエイト川名、ガイドネットあいさぽーと等)との連携が必要。当該職員に十分な説明を。
平成27年8月19日(水) 午後5時30分	
議案	第1号議案 名古屋銀行当座貸越 保証約定書の更新について
平成27年11月24日(火) 午後3時50分	
議案	第1号議案 上半期事業報告・中間決算(案)について 第2号議案 第二次補正予算(案)について 第3号議案 各種規程の制定、変更について 第4号議案 「なごやよりどころサポート事業」について 第5号議案 瀬古マザー園 公有財産有償貸付契約の変更について 第6号議案 資産運用の状況について
主な発言	(第6号議案について) ・今後はどのような運用方針なのか。→ある程度の活動資金の確保を目指しながらも、安全性の向上を念頭に、今後の償還や満期等のタイミングで、公債等の安全性の高いものを基本に購入していくという方向性を共有。

平成 28 年 3 月 29 日 (火) 午後 4 時 00 分	
議 案	第 1 号議案 第三次補正予算 (案) 第 2 号議案 平成 28 年度事業計画・収支予算 (案) について 第 3 号議案 各種規程の改訂について 第 4 号議案 組織変更及び人事について
主な発言	(第 4 号議案について) ・これまで改善を求めてきた法人本部の強化等織り込まれており感謝している。 ・法人運営会議のメンバーに常勤評議員とあり、現状では施設長をしている評議員を指しているが、社会福祉法改正後は評議員と施設長の兼務ができなくなるので注意を。

イ 評議員会の開催状況 (計 3 回)

開催年月日	議 題
平成 27 年 5 月 22 日 (金) 午後 1 時 30 分	第 1 号議案 就業規則、経理規程の変更について 第 2 号議案 平成 26 年度事業報告・決算 (案) について 第 3 号議案 平成 27 年度第一次補正予算 (案) について
平成 27 年 11 月 24 日 (火) 午後 1 時 45 分	第 1 号議案 上半期事業報告・中間決算(案)について 第 2 号議案 平成 27 年度第二次補正予算(案)について 第 3 号議案 各種規程の制定、変更について
平成 28 年 3 月 29 日 (火) 午後 1 時 45 分	第 1 号議案 第三次補正予算 (案) について 第 2 号議案 平成 28 年度事業計画・収支予算 (案) について 第 3 号議案 各種規程の改訂について

ウ 部長会 (施設長会) の開催状況 (計 13 回)

開催年月日	主 な 議 題
平成 27 年 4 月 23 日 (木)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 5/22 理事会・評議員会について 放課後等デイサービス拡充の進捗状況について
平成 27 年 5 月 8 日 (金)	処遇改善加算に対応する賃金改善の方法について
平成 27 年 5 月 19 日 (火)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 処遇改善加算への対応について
平成 27 年 6 月 19 日 (金)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 人事考課結果の夏季賞与への反映について しょうぶ法律事務所 弁護士 市橋氏ご挨拶と講話

平成 27 年 7 月 17 日 (金)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 法人職員研修会について 主に新卒者求人想定のコピー、キービジュアルについて マイナンバー制度について
平成 27 年 8 月 19 日 (水)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 車両の管理（リース及びメンテナンス契約）について 年末年始手当の統一について
平成 27 年 9 月 18 日 (金)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 中間決算・上半期事業報告・第二次補正予算について 同行援護従業者養成研修について
平成 27 年 10 月 20 日 (火)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 新規採用者等格付と調整手当、再格付けについて 法人の内部監査について
平成 27 年 11 月 17 日 (火)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 冬季人事考課と冬季賞与について 愛知県災害派遣福祉チームへの協力について 3 法人での情報交換会。交流会について
平成 27 年 12 月 18 日 (金)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 70 周年記念誌企画「LHの未来像」について
平成 28 年 1 月 19 日 (火)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について サービスの土曜日稼働について 人事考課制度と昇給・賞与の関連の見直しについて
平成 28 年 2 月 19 日 (金)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について グローイングアカデミーの更新について 法人の研修体系（新研修提案を含む）について
平成 28 年 3 月 18 日 (金)	実績報告・各施設報告・統括会議報告について 4 月 1 日付 人事について 新卒採用の方向性（主旨）と具体的な動きについて

(2) 登記事項

光和寮 福祉医療機構 抵当権抹消登記	平成 27 年 4 月 1 日登記
法人 平成 26 年度 資産変更登記	平成 27 年 5 月 26 日登記
光和寮 土地購入 所有権移転登記 (昭和区川名本町一丁目 24 番)	平成 27 年 8 月 11 日登記
光和寮 名古屋銀行 抵当権設定登記	平成 27 年 10 月 2 日登記

(3) その他事業

ア 愛盲報恩会事業  
・助成事業

25 団体・部会・事業等 1,490,000 円

- ・第10回 近藤正秋賞、片岡好亀賞、地域活動特別賞贈呈式  
名古屋盲人情報文化センターにて 平成28年1月30日
- イ 国兼基金事業  
物故者慰霊祭 平成27年10月17日
- ウ 補正予算
  - ・第一次補正 平成27年5月22日 理事会・評議員会承認
  - ・第二次補正 平成27年11月24日 理事会・評議員会承認
  - ・第三次補正 平成28年3月29日 理事会・評議員会承認
- エ 職員研修  
法人基礎研修 29名 平成27年4月14・15日、10月7・8日  
職員全体研修（会場 ホテル ルブラ王山） 192名 平成27年9月5日  
ドキュメンタリー映画視聴「何のために」 他

## 2 助成・寄付に関する特記事項（順不同）

### （1）助成に関する特記事項

愛知県共同募金会	港ワークキャンパス 車両整備	1,460,000 円
愛知県共同募金会	名古屋盲人情報文化センター ボランティア研修事業補助金	600,000 円
中部電気保安協会	戸田川グリーンヴィレッジ 設備整備	100,000 円

### （2）寄付に関する特記事項（順不同）

金森 義忠 様	100,000 円（本部）
坂文種報徳会 様	500,000 円（本部）
森本 和男 様	300,000 円（国兼基金）
小山 章 様	100,000 円（国兼基金）
中島 真太郎 様	100,000 円（国兼基金）
中島 留宇子 様	100,000 円（明和寮）
山盛 信吉 様	1,000,000 円（港ワークキャンパス）
平尾 嘉孝 様	2,000,000 円（戸田川グリーンヴィレッジ）
鈴木 孝之 様	100,000 円（戸田川グリーンヴィレッジ）
藤澤 加代子 様	200,000 円（戸田川グリーンヴィレッジ）
篠田 和宏 様	500,000 円（戸田川グリーンヴィレッジ）
匿名希望 様	100,000 円（名古屋盲人情報文化センター）
匿名希望 様	100,000 円（名古屋盲人情報文化センター）
佐藤 武彦 様	500,000 円（瀬古マザー園）

---

## Ⅱ 光和寮 拠点

---

障害者支援施設	『光和寮』
就労継続支援事業 B 型	
就労移行支援事業	名古屋東ジョブトレーニングセンター
生活介護事業	
施設入所支援	
福祉ホーム	『かわな』『やすだ』
同行援護・移動支援事業	『ガイドネットあいさぽーと』
地域活動支援事業	『デイサービスセンタークリエイト川名』
相談支援事業	『光和障害者相談センター』
地域貢献事業	『視覚障害者支援室』

本年度は第 2 期 3 か年計画の初年度として、①利用者に必要とされる光和寮、②地域に貢献する光和寮、③デイ棟建替により新しく発展する光和寮の 3 つの観点からそれぞれの事業に取り組んだ。

事業活性の目安となる利用稼働率については、就労継続 B、就労移行、あいさぽーとで目標を上回り、生活介護、クリエイト川名が目標を達成できなかった。両事業とも活動スペース不足の課題があり、デイ棟建て替え計画の中で中期的な課題として改善していく。入所支援、福祉ホームの住まいの場サービスも目標値に達しなかったが、利用者の重度化高齢化に対応する次の安心できる居場所の模索、地域生活への積極的な移行促進など個別のケースへ対応した結果であり、同時に空室の有効活用の観点から光和寮拠点の住まいの事業について、利用者像やサービス提供のあり方について検討整理を進めている。就労継続 B 型の生産活動は収支マイナスとなり苦戦を強いられた。拠点全体の事業活動収支は昨年度実績を上回ることができた。相談支援センターは手狭であった光和寮内事務所から近隣の賃貸事務所に移転した。契約利用者も 500 名を越え順調に活動できている。本年度より開設した視覚障害者支援室も職員一人ではあるが病院等外部福祉資源とのネットワーク構築、内外の専門相談、同行援護従業者養成研修の実施など着実に成果を挙げている。

実習や見学依頼も積極的に受け入れ、寮友会行事、親和会行事、職員企画行事等拠点内行事を開催し好評を得た。地域向け行事では、恒例となっている夏祭りや地域フェスティバルの他に地域焼き芋大会、地域餅つき大会など地域を巻き込んだ形の行事を新規に企画開催した。来年度も継続方針である。

経年劣化した建物設備の保守関連では、入居棟の大浴・小浴場修繕、ポンプ及び循環器修理、居室エアコン更新、ワーク棟外壁工事などを行った。また、LED 電灯への切り替えも全棟の必要箇所において実施した。

引き続き各事業の活性化と一人ひとりの利用者支援の充実、地域との共生を念頭に、デイ棟建替え計画を進行させつつ夢のある福祉拠点創りを目指す。

## 1 障害者支援施設 『光和寮』

### (1) 就労継続支援事業 B 型

引き続き新たな仕事の開拓や利用者の働きやすい作業環境づくりを進めた。

治療部では課題であった新規顧客の開拓では、吹上駅南北コンコース 2 箇所に設置された案内板に掲載した本部棟の写真と案内図の成果が表れ、今年度後半からは毎月 10 名程度だった新規顧客が 20 名以上と大きく増やすことができた。しかし、既存の顧客の来院周期が非常に長くなる傾向が見られトータルの来院数は減少した。

職員配置面では、鍼灸マッサージの資格を持った職員を採用することができ、今までできなかった技術的なアドバイスも可能となり、治療師の技術力向上が期待される。

印刷科については今年度中に二度も営業担当が交代するという事態となり、利用者や顧客に対して少なからず心配をかけてしまった。また、昨年度より取り組み始めたアプリを活用した特殊印刷物については、そのアプリが安定性に欠けるため継続を断念したが、部品加工科と連携して行った T シャツプリント事業については、プリントの設備をメーカーから借り試作を行うなど、多少なりともノウハウを得ることはできた。

印刷科録音部門については、文章の書き方についての大まかルールを決めて、利用者と職員の息の合った作業ができるよう製作工程を改善した。

部品加工科は、業務改善を行うためにコンサルタントを導入し取り組んだ。今まで職員が行っていた検品作業など無駄を省くことで、効率よく作業を進めることができた。

新規取引先獲得の目標を 2 件としていたが、結果的に 1 件にとどまった。また、既存の取引先の減少もあり目標売上に達することができなかった。

利用者に関しては A 型施設に移行した方や生活介護から技能開発センターの利用を開始する方など、ステップアップの形は見えてきた。新規利用者の確保については、技能開発センターの引き合いは多かったが、利用に繋がる案件は少なかった。

#### ア 工賃支払状況

在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者(人)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成 25 年度 計	52	24	76	平成 25 年度 平均		42,467
平成 26 年度 計	51	27	78	平成 26 年度 平均		39,076
平成 27 年度 計	50	29	79	平成 27 年度 平均		37,056
治療部	6	5	11	208,021	43,756	111,011
印刷科	7	7	14	103,824	15,876	51,481
部品加工科	36	18	54	79,380	14,112	24,741

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

治療部	年間の来院数 4,512 人 年間の新規来院数 225 名 1 顧客あたりの平均単価 2,952 円
印刷科	冊子製本 年間 124 件                      封筒印刷 年間 180 箱 名刺印刷 年間 1,122 箱                      録音速記 年間 173 時間
部品加工科	マーカー本体、先端部分の組付け作業 1,971,600 個 パイプ洗浄剤検品作業 54,000 個 ギフトセット組み作業 150,000 セット アメニティグッズセットアップ作業 48,500 個 キッチン取手インサート作業 77,000 個 壁掛 TV 金具検品作業 2,800 個

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 25 年度	11	12	76	80
平成 26 年度	6	4	78	
平成 27 年度	4	4	78	

※H27 年度退所者：法人内他施設 1 名、他施設 2 名、自宅 1 名

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25 年度	33	30	1	18	1	0	76(7)
H26 年度	33	30	1	19	2	0	78(7)
H27 年度	34	28	1	18	3	0	78(6)

( ) 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H25 年度	21	2	22	24	6	1	0	76
H26 年度	22	3	19	27	6	1	0	78
H27 年度	21	3	18	25	10	1	0	78

カ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H25 年度	3	7	14	16	18	18	76	46.8 歳
H26 年度	1	8	15	15	23	16	78	47.1 歳
H27 年度	1	8	15	14	20	20	78	47.5 歳



キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
80	H25年度	254	18,159	71.5	89.4%
	H26年度	254	18,220	71.7	89.6%
	H27年度	255	18,421	72.2	90.3%

(2) 就労移行支援事業 「名古屋東ジョブトレーニングセンター」

毎年恒例になった見学会には 50 名を超す参加があり、夏休みなどの長期休暇の実習受付方法の改善や、新規実習生をできるかぎり受け入れたことで、センターの周知と実習のリピーター増に繋がった。これらの継続的な活動と、受け入れ訓練生に幅を持たせたこともあり、今年度の平均利用率は前年度の 90%から 102%へと向上した。

就職者数は 4 名と少なかったが、4 月から 2 名のトライアル雇用が決まっており、他 2 名も来年度早々の就職が見込めるなど、本年度中の活動の成果と言える。

その他、養護学校からの依頼を受け、アドバイザーとして在校生の企業実習に関わったり、当事業所とは関わりがなかった働く障害者の離職危機の相談を受け入れ、支援対応を行った。また、小学校特別支援学級のグループでの体験実習を実施するなど、公益性のある活動にも継続的に取り組んだ。今後も当事業所ができる限りの活動を通して、障害のある方の“働く”、“生活の自立”に向けた支援を続ける。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	※アセス利用	定員
平成 25 年度	14	14	14	2	18
平成 26 年度	14	14	14	8	
平成 27 年度	11	8	17	3	

※B 型利用希望者の在学中におけるアセスメント目的の暫定支給決定（短期利用）

イ 退所後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
H25 年度	9	1	2	2	14
H26 年度	8	1	4	1	14
H27 年度	4	0	3	1	8

ウ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25 年度	0	0	0	13	2	0	14(1)
H26 年度	0	1	1	13	1	0	14(2)
H27 年度	0	1	0	17	2	0	17(3)

( ) 内は重複障害再掲

エ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H25年度	8	0	4	2	0	0	0	14
H26年度	7	0	3	4	0	0	0	14
H27年度	10	0	1	4	2	0	0	17

オ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	8	5	1	0	0	0	14	20.8
H26年度	9	4	1	0	0	0	14	21.6
H27年度	9	6	2	0	0	0	17	20.4

カ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
18	H25年度	254	2,602	10.2	56.9%
	H26年度	254	4,125	16.2	90.2%
	H27年度	255	4,683	18.4	102.0%

(3) 生活介護事業

サービス提供時間の変更と、これに伴う職員の出勤態勢を変更し長時間のサービス提供態勢を整えた。また、利用者が将来ステップアップできる形を作るために生産活動サービスの提供（作業提供）を行ってきたが、本年度1名が光和寮の就労継続支援事業へ移行した。しかし平均利用率が昨年度の82.9%から、本年度は80.4%と低下した。

次年度は、デイ棟建て替えを見据えながら、障害特性に応じた活動も充実させ、利用者の確保にも繋げていく。また職員の資質向上を目指す。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成25年度	4	4	26	20
平成26年度	1	3	24	
平成27年度	3	4	23	

※H27年度退所者：法人内他施設1名、他施設1名、自宅1名、病院1名

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25年度	10	13	4	8	1	0	26(10)
H26年度	6	11	5	9	0	0	24(7)
H27年度	6	10	5	8	0	0	23(6)

( ) 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H25年度	0	0	4	5	5	5	7	26
H26年度	0	0	4	5	4	2	9	24
H27年度	1	0	1	7	4	3	7	23

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	2	6	2	2	9	5	26	47.9歳
H26年度	2	7	1	2	6	6	24	42.5歳
H27年度	0	7	1	2	7	6	23	45.7歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
20	H25年度	236	3,573	15.1	75.6%
	H26年度	236	3,916	16.7	83.6%
	H27年度	232	3,734	16.1	80.5%

カ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
活動補助	230名
音楽講師	78名
マッサージ	12名

(4) 施設入所支援

①生活支援

利用者の個別状況への細かな対応や安全と安心感を最優先とする支援に取り組み、居室内の環境整備、社会資源の情報提供を行った。エアコン交換(2部屋)、蛍光灯交換、浴槽循環器の表示盤交換、大浴場の浴槽内のタイル工事、居室ドアの修理を実施した。更に火災通報装置を新しく交換し避難訓練を行った。

退所者は福祉ホーム「かわな」への移行が1名、グループホームへの移行が1

名の計 2 名であった。入所者は 0 名であった。施設体験利用者は 2 名受け入れたが、新規利用契約へと繋がらなかった。結果、利用稼働率は 66%であった。

また、地域・福祉ホームへの移行希望も聞き取り、利用者の自立に向けた相談を行うと共に、余暇活動にも積極的に取り組み、季節行事「お花見会」「お月見会」「元旦の初詣参拝」「新年鍋パーティー」「節分」等の催し物を企画実施して QOL の向上を図った。

## ②給食及び栄養指導について

本年度も、豪華な食材を使用した「特別メニュー」と季節感を味わっていただくため、旬の食材を使用した「行事食」の提供を実施。また、元日の朝食に雑煮と夕食にはお寿司を提供し正月の雰囲気を楽しんでいただいた。

栄養マネジメントでは、食事指導、運動指導を行い、利用者の健康状態の維持・向上に努めた。

誕生日のリクエストメニューを提供し、誕生日には自分の好きなメニューを食べられ好評であり、食の楽しみを味わっていただいた。

地域の生活に向けて、施設入所から福祉ホーム「かわな」の体験利用者に買い物と調理実習を行い、より実践的な食事指導を行った。

## ③防災と安全確保について

本年度も、利用者による缶詰やレトルト食品の開封体験や職員中心の炊き出し訓練を行い、多くの職員が参加して実践的な訓練を行った。

避難訓練については、避難用滑り台の体験、消火器を使用しての消火訓練を実施した。また、居室内点検を行い災害時における避難通路を確保するための指導、改善を図った。

更に非常食の食数を昨年度よりも 5 人×3 食 3 日分の数を増やし備蓄した。

## ④地域生活移行推進に向けて

地域移行に必要な情報提供を行い、グループホームへ移行した利用者が 1 名、福祉ホーム「かわな」へ移行した利用者が 1 名であった。また、ヘルパーの情報提供や利用相談、福祉ホーム「かわな」での自立体験を図り、地域移行を積極的に促進した。

## ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 25 年度	2	0	23	32
平成 26 年度	2	2	23	
平成 27 年度	0	2	21	

※H27 年度退所者：地域移行 2 名

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25年度	11	9	1	6	1	0	23(5)
H26年度	10	8	1	8	1	0	23(5)
H27年度	10	7	1	6	0	0	21(3)

( ) 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H25年度	0	1	7	12	2	1	0	23
H26年度	0	1	7	12	2	1	0	23
H27年度	0	0	6	12	2	1	0	21

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	0	2	3	6	10	2	23	48.4歳
H26年度	0	1	2	6	10	4	23	51.0歳
H27年度	0	0	2	6	6	7	21	52.1歳

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
夏まつり	38名
地域交流フェスティバル	64名
メイクサロン	5名
メガネメンテナンス	1名
クリスマス会	5名
新年鍋パーティー	5名

## 2 福祉ホーム『かわな』『やすだ』

### (1) かわな

本年度の退所者はなく、新たに3名が入居され、体験室を1名が使用しており満室となった。新規入居者は、肢体障害の方が1名、視覚障害の方が2名の計3名であった。地域移行に向けて視覚障害の方が1名体験しており、近々に民間住宅に移行する見込である。

また、市営住宅と県営住宅の申し込みは継続して行っているが、入居者が希望される地域は競争率が高く、公営住宅への転居は厳しい現状が続いている。

設備面では火災通報装置を新しい基準に適合した型に取り替え、消防署立会いで避難訓練を実施した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 25 年度	1	2	11	15
平成 26 年度	2	2	11	
平成 27 年度	4	0	15	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25 年度	2	8	1	0	0	0	11
H26 年度	3	7	1	0	0	0	11
H27 年度	6	8	1	0	0	0	15

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H25 年度	8	0	1	0	1	1	0	11
H26 年度	8	0	1	1	1	0	0	11
H27 年度	8	0	4	2	1	0	0	15

エ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H25 年度	0	0	0	1	3	7	11	59.6 歳
H26 年度	0	0	0	0	4	7	11	61.6 歳
H27 年度	0	0	0	2	5	8	15	59.9 歳

(2) やすだ

本年度の入所、退所者はともに 0 名であった。ヘルパー利用は、昨年同様 6 名だが利用頻度は増えており、うまく活用している。

地域に住み生活ができるようヘルパーを利用しながら、1 名が福祉ホーム「かわな」での体験を行っており、今後は地域に出て生活をして行く予定である。

設備面では、故障したエアコンを随時交換し、蛍光灯設備の交換を行った。居室の鍵の調子が悪いところは（1 室）新しい鍵に交換した。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 25 年度	0	0	10	11
平成 26 年度	1	1	10	
平成 27 年度	0	0	10	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25年度	4	6	0	0	0	0	10
H26年度	3	7	0	0	0	0	10
H27年度	3	7	0	0	0	0	10

( ) 内は重複障害再掲

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H25年度	1	0	4	4	1	0	0	10
H26年度	1	0	3	4	2	0	0	10
H27年度	1	0	3	4	2	0	0	10

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	0	1	2	1	2	4	10	49.0歳
H26年度	0	1	3	1	2	3	10	46.3歳
H27年度	0	0	4	1	2	3	10	47.3歳

### 3 同行援護・移動支援事業 『ガイドネットあいさぽーと』

本年度は、新規ヘルパー6名を確保した。既存の利用者の定期活動の追加や新規利用者の定期利用が増えたため活動時間の増加に繋がった。

利用者から要望される曜日・時間帯が偏ってしまう傾向が昨年度より継続して現れており、ヘルパー調整に苦慮しているところであるが、次年度においてもヘルパーの確保に努め、安定したガイドヘルパーの派遣ができる態勢を構築し、利用者の多様なニーズに対応していく。

ア 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25年度	52	0	0	5	1	0	54(4)
H26年度	49	0	0	5	0	0	50(4)
H27年度	46	0	0	4	0	0	47(3)

( ) 内は重複障害再掲

イ 障害程度区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H25年度	5	7	24	16	1	1	0	54
H26年度	3	5	16	23	2	1	0	50
H27年度	4	1	10	27	4	1	0	47

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	2	2	3	8	2	37	54	63.7歳
H26年度	2	2	1	8	2	35	50	64.2歳
H27年度	2	3	1	6	1	34	47	65.5歳

エ 活動実績時間数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
移動支援（月平均）	7.3時間	17.2時間	5.9時間
同行援護（月平均）	298.0時間	339.3時間	360.6時間

4 地域活動支援事業 『デイサービスセンター クリエイト川名』

利用率が83%に留まり目標の90%に達しなかった。利用登録者は50名を越えているが、既存の活動スペースがこれ以上拡大できないこともあり新規利用の活動数が頭打ちとなっている。

次年度は今後のデイ棟建て替えを視野に入れ、また利用者一人ひとりにきめ細かなサービス提供を目指していく。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成25年度	7	3	52	19
平成26年度	4	2	54	
平成27年度	3	4	53	

※H27年度退所者：自宅3名、死亡1名

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25年度	51	0	0	1	1	0	52(1)
H26年度	53	0	0	1	1	0	54(1)
H27年度	52	0	0	1	1	0	53(1)

( ) 内は重複障害再掲

ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	0	2	3	5	7	35	52	61.5歳
H26年度	0	2	3	5	7	37	54	63.5歳
H27年度	0	1	3	4	7	38	53	64.9歳



## エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
19	H25年度	246	3,890	15.8	83.2%
	H26年度	244	3,799	15.6	81.9%
	H27年度	240	3,770	15.7	82.8%

## オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ参加人数
活動補助	192名
外出ボランティア	0名
陶芸	192名
音楽講師	12名
体操講師	48名

## 5 相談支援事業 『光和障害者相談センター』

開設から4年を経過し、当事業所の役割や機能は地域に定着しつつある。利用契約者数も3月末には525名となり、更に増加傾向にある。1月中旬には、事業の拡充・職員の増員などの理由により、事務所を光和寮棟から塩付通へと移転した。

計画相談を核とし、地域移行支援や地域定着支援など地域のニーズを拾い上げ、幅広く対応できる事業所を目指し実践をしてきた。今後とも、関係機関との連携を基に、複数機関で個々のケースの課題が解決できるような仕組みを作っていく。

## ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(人)	
			障害者	障害児
H25年度	367	609	375	7
H26年度	437	670	458	13
H27年度	474	743	514	11

## 6 地域貢献事業 『視覚障害者支援室』

視覚障害利用者の多い当施設において、職員への視覚障害理解、利用者への生活用具などの情報提供を行った。

また、名古屋盲人情報文化センター・名古屋市総合リハビリテーションセンター・名古屋市立大学病院・愛知視覚障害者援護促進協議会などと連携し、利用者の状況・相談などの情報共有を行った。

①制度や法律、日常生活、社会生活上の有用な情報の収集と発信

利用者へ補装具・日常生活用具などを中心に便利な商品を紹介、購入・修理相談を行った。

②地域の福祉ネットワークへ繋げるコーディネート

昭和区自立支援協議会の当事者部会に参加し、地域福祉に貢献するため、視覚障害者の立場から意見や提案を行った。また、なごや福祉用具プラザと IT 機器に関して情報共有を行った。

③生活支援や就労支援の相談

問い合わせのあった方の相談において、当施設内で対応できる場合は各部所へ、対応できない場合は他施設等を紹介した。

④講座への講師派遣

介護労働安定センターからの同行援護従業者養成研修の講師の派遣依頼に対応した。

⑤同行援護従業者養成研修の実施

法人内で 2 回開催、11 月に光和寮拠点、1 月に明和寮拠点で開催し、受講者 42 名・41 名が修了した（内法人職員は 9 名）。

他に、視覚障害者のコミュニケーションの一つ、点字を職員が読み書きできるように点字勉強会を 2 回開催した（21 名受講）。

---

### Ⅲ 明和寮 拠点

---

障害福祉サービス事業	『明和寮』
就労継続支援事業 B 型	ビーサポート
就労移行支援事業	港ジョブトレーニングセンター
生活介護事業	ぷちとまと
福祉ホーム	『あかり』『黎明荘』
同行援護・重度訪問介護等事業	『みなとガイドネット』
地域活動支援事業	『地域活動支援センター あちえっとほーむ』
放課後等デイサービス	『わくわくキッズ』
放課後等デイサービス	『わくわくステップ』
相談支援事業	『明和障害者相談センター』
基幹相談支援センター	『港区障害者基幹相談支援センター』
障害者就業・生活支援センター	『海部障害者就業・生活支援センター』

本年度、「地域の有益な福祉資源」を目指す第 2 期 3 ヶ年計画の初年度として、各事業においてサービス提供体制や個別支援方法の見直しを実施するとともに、定員増（生活介護事業）や新規事業所（放課後等デイサービス）の開設など拠点のサービス拡充に取り組んだ。今後も重点項目として継続的に取り組む。

また、拠点内外のネットワークの構築については、相談事業の地域への浸透や関連機関主催の会議や勉強会への参加、学校や家族との連携強化などを通じ徐々に広がりつつある。引き続き強化・拡大を図る。

人材育成については、研修会参加等による専門性の強化を図るとともにネットワーク活動のスキルをアップする必要がある。活動の機会を増やすとともに人事考課制度を活用しつつ育成に取り組む。

施設整備については、名古屋市の助成金を活用し建物の耐震診断を実施した。補強工事等は不要という結果を得たが、建物・設備の老朽化が目立ってきているため次年度以降改修計画を具体化していく。

## 1 障害福祉サービス事業 『明和寮』（多機能型）

### （1）就労継続支援事業B型 「ビーサポート」

第2期3ヵ年計画を意識し、かつ時代の潮目を読み、工賃向上、売り上げ確保および利用者の安心・安全な作業環境整備のみならず、今後どういった施設であるべきか、地域・関係機関から必要とされるために何に取り組むかについて重点的に検証し、積年の課題が浮き彫りとなった。

下請け作業である組立加工科、自動車部品科は、客先都合による作業数量の増減に振り回された結果、売上減少のみならず利用者の手待ち状況の頻発、またその状況に対し有効な手立てを打てなかった。

印刷科は売上額では順当な着地となったが、下期に印刷機オペレーターが不在となり外注比率が上昇、利用者は軽作業中心となった。内製化は急務であるが、利益率改善に直結しないところが大きな課題である。

包装加工科は、作業量は安定していたが新たな客先獲得などに取り組めなかった。また老朽化した機器の定期メンテナンスも計画通り実施できなかった。

社会貢献科は自動販売機の管理を継続し、新たな取り組みとして明和寮ホームページのリニューアルおよび管理を始めたが、愛知県 SELP の委託事業である「金山即売会」管理業務は本年度3月にて終了。来期は印刷科に統合し、売上確保策構築と利用者の状態を勘案しながらあるべき形を模索していく。

平成28年度の準備として、本年度中に利用者支援の迅速性と作業における効率化を目指し、作業場のレイアウト変更や請負仕事の整理を実施した。次年度の成果に繋げる。

利用者像の多様化への対応、下請け作業中心であることの課題に対し、職員の能力育成が急務であることが再認識された。

ア 工賃支払状況

在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者(人)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成 25 年度 計	85	22	107	平成 25 年度 平均		49,497
平成 26 年度 計	81	25	106	平成 26 年度 平均		52,814
平成 27 年度 計	79	23	102	平成 27 年度 平均		53,580
印刷事業	6	3	9	124,113	28,821	64,603
組立事業	26	6	32	89,361	24,622	46,276
自動車部品事業	37	14	51	84,232	22,030	48,816
包装加工事業	14	1	15	119,185	35,014	70,279
社会貢献事業	1	1	2	110,086	21,422	65,754

イ 就労事業 (生産物等) の状況 (概要)

印刷科	冊子、チラシ、封筒、名刺など編集・印刷作業・Paper chips の カッティング・梱包作業 合計 9,673,438 枚
組立加工科	キッチン取手インサートナット加工及び組付け 393,788 個 タンク並べ 6,080,974 個
自動車部品科	ケースフィルター組付け 1,738,470 個 クーラントシール貼り、梱包作業 248,640 個 点火プラグマスキング作業 2,717,652 個 フロントグリルのエンブレムなど組付け作業 28,000 個 ドアミラーマスキング作業 137,010 個 ガス給湯器内ヒータのバネ付け作業 830,900 セット ガス給湯器部品箱入れ作業 2812128 個
包装加工科	プラスチック真空成型加工のみ 真空成型加工及びスライドブリスター (折り曲げ) 加工 スライドブリスター (折り曲げ) 加工のみ 合計 4,834,341 個
社会貢献科	自販機設置協力事業所 34 社 設置台数 50 台 ブログ更新 46 回

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 25 年度	9	4	107	100
平成 26 年度	9	10	106	
平成 27 年度	3	7	102	

※H27 年度退所者：一般就労 1 名、他施設 5 名、自宅 1 名

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25年度	19	63	0	32	11	0	107(18)
H26年度	19	57	0	35	12	0	106(17)
H27年度	17	54	0	35	13	0	102(17)

( ) 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H25年度	29	4	26	34	9	4	1	107
H26年度	32	4	24	32	9	4	1	106
H27年度	33	3	22	28	10	5	1	102

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	6	5	13	26	26	31	107	49.7歳
H26年度	5	9	9	28	24	31	106	49.6歳
H27年度	1	13	8	23	28	29	102	49.7歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
100	H25年度	254	22,479	88.5	88.5%
	H26年度	253	23,405	92.5	92.5%
	H27年度	256	22,590	88.2	88.2%

ク ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備考
行事協力	88	ライトハウス福祉まつり、納涼祭、ボランティア協力食事会
頭髪カット	3	
クラブ活動支援	90	詩吟、卓球、将棋、陶芸、切り絵、手芸、スケッチ

(2) 就労移行支援事業 「港ジョブトレーニングセンター」

第2期3カ年計画の1年目として、3つの柱（営業・開発部門の強化、事業運営の戦略作り、前向きな育成環境づくり）に取り組み始めた本年度。新たな求職困難者への営業活動を行い、一定の手ごたえを感じる事ができた。また、支援経験の浅い職員には1件1件に専念できる体制をつくるとともに、個々の業務進捗や負担感の程度について密に把握することで各職員が自身の強みを絞り込む事ができた。

反面、就職実績2年目の利用者割合が高い本年度は、多くの就職実績を出すことが

できたが、1年を通して経験豊富な支援者が現場業務と後輩職員のフォローに追われ、営業・開発に注力しきれない状況が続いた。

事業開始後8年を経て、関係機関や地域からの問い合わせが広がってきた実感がある。来年度は営業・開発部門に力を入れるとともに3つの柱もより掘り下げ、チームとして団結して取り組む。

#### ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	※アセス利用	定員
平成25年度	27	15	26	10	15
平成26年度	11	17	20	5	(18)
平成27年度	17	19	18	20	※H26.3変更

※B型利用希望者の在学中におけるアセスメント目的の暫定支給決定（短期利用）

#### イ 退所後の進路

	一般企業	就労継続A型	就労継続B型	その他	合計
H25年度	7	8	0	0	15
H26年度	7	4	2	4	17
H27年度	13	2	0	5	20

#### ウ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25年度	0	4	2	18	4	0	26 (2)
H26年度	0	3	1	13	4	0	20 (1)
H27年度	0	3	1	9	7	0	18 (2)

( ) 内は重複障害再掲

#### エ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H25年度	23	0	2	1	0	0	0	26
H26年度	18	0	1	1	0	0	0	20
H27年度	17	0	0	0	1	0	0	18

#### オ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	4	16	1	3	2	0	26	26.6歳
H26年度	6	12	0	2	0	0	20	22.8歳
H27年度	6	8	3	1	0	0	18	24.2歳

## カ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
18 ※1	H25年度	251	4,003	15.9	104.5% ※2
	H26年度	256	4,931	19.3	107.0%
	H27年度	255	2,999	11.8	65.3%

※1 平成26年3月より定員変更（15名→18名）

※2 年度平均は定員の平均値にて算出（（15名×11ヶ月+18名）／12ヶ月=15.25）

### （3）生活介護事業 「ぷちとまと」

本年度は事業拡大に向けさまざまな環境整備に取り組んだ。定員は、計画通り平成28年1月に10名から12名に増員した。しかし、活動スペースの拡充については多面的に検討する必要があると継続検討となった。

関係機関との連携は良好で、ケース会議や日常の情報交換などを活発にできるようになった。また、職員のスキルアップについては外部研修への参加や資格取得などに積極的に取り組んだ。

今後も多様化するニーズに応えるために更なる職員の意識改革と利用者にとってより快適で信頼できる事業所となるよう環境づくり、体制づくりを進める。

## ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成25年度	1	3	27	10 (12) ※H28.1変更
平成26年度	4	2	29	
平成27年度	2	2	29	

※H27年度退所者：自宅1名、死亡1名

## イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25年度	4	20	0	12	3	0	27 (12)
H26年度	5	21	0	13	2	0	29 (12)
H27年度	4	22	0	14	1	0	29 (12)

( ) 内は重複障害再掲

## ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H25年度	0	0	0	4	2	5	16	27
H26年度	0	0	0	4	4	4	17	29
H27年度	0	0	0	3	4	5	17	29

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	0	11	6	3	1	6	27	38.7歳
H26年度	1	10	5	5	2	6	29	40.5歳
H27年度	1	9	6	6	2	5	29	40.6歳

オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
10 ※1	H25年度	242	2,660	10.9	109.9%
	H26年度	242	2,709	11.2	111.9%
	H27年度	240	2,692	11.2	106.8% ※2

※1 平成28年1月より定員変更（10名→12名）

※2 年度平均は定員の平均値にて算出（(10名×9ヶ月+12名×3ヶ月）/12ヶ月=10.5）

2 福祉ホーム 『あかり』『黎明荘』

本年度は、障害の重度化にともない「あかり」から3名が退去した。長期利用者が多い中で障害の重度化、高齢化が継続した課題となっている。

また、建物の老朽化も大きな課題となっているが、年度末に2居室リフォームを行い（平成28年度初めに2居室予定）、新規利用者受け入れの準備を行った。

今後も利用者の利便性や快適性の向上を考え、計画的な機器の更新や美観の回復を図る。

(1) あかり

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成25年度	0	2	37	40
平成26年度	2	3	36	
平成27年度	0	3	33	

※H27年度退所者：他施設3名

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25年度	8	29	0	7	2	0	37 (9)
H26年度	8	28	0	7	2	0	36 (9)
H27年度	8	25	0	7	2	0	33 (9)

( ) 内は重複障害再掲



ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H25年度	4	1	11	14	3	3	1	37
H26年度	5	2	11	11	3	3	1	36
H27年度	5	2	9	9	4	3	1	33

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	0	0	3	8	12	14	37	55.4歳
H26年度	0	0	2	9	12	13	36	56.7歳
H27年度	0	0	1	5	13	14	33	57.0歳

(2) 黎明荘

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成25年度	1	0	5	10
平成26年度	0	0	5	
平成27年度	0	0	5	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25年度	1	4	0	0	0	0	5
H26年度	1	4	0	0	0	0	5
H27年度	1	4	0	0	0	0	5

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H25年度	0	0	1	1	3	0	0	5
H26年度	0	0	1	1	3	0	0	5
H27年度	0	0	1	1	2	1	0	5

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	0	0	1	1	3	0	5	50.6歳
H26年度	0	0	0	1	4	0	5	51.6歳
H27年度	0	0	0	1	4	0	5	52.6歳

### 3 同行援護・重度訪問介護等事業 『みなとガイドネット』

昨年度に比べ利用時間数の大幅な増減はなく順調に推移した。また、サービス提供責任者が事務所に常駐する時間も増え、徐々にではあるがあるべき姿に近づいてきている。

また、新たに専属の事務員を配置したことにより事務所内のコミュニケーションが円滑になり、利用者・ヘルパーから電話対応や来所時の対応が良くなったと言われる等、満足度も向上できた。

ガイドネット会議の定期開催により職員間の情報共有を図ることはできたが次年度は更に課題に対する対策を検討する時間を増やす。

#### ア 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25年度	29	32	0	5	1	0	67
H26年度	35	33	0	4	0	0	72
H27年度	33	26	0	6	0	1	66

#### イ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H25年度	6	1	17	20	6	8	9	67
H26年度	8	2	18	20	7	8	9	72
H27年度	6	1	13	22	9	4	11	66

#### ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	6	1	2	11	15	32	67	55.4歳
H26年度	5	1	6	10	17	33	72	55.4歳
H27年度	3	2	2	10	17	32	66	56.5歳

#### エ 活動実績時間数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
重度訪問介護（月平均）	328.3時間	350.5時間	339.7時間
移動支援（月平均）	59.4時間	46.5時間	43.7時間
居宅介護（月平均）	125.1時間	104.3時間	95.5時間
同行援護（月平均）	526.0時間	536.5時間	521.0時間

#### 4 地域活動支援事業 『地域活動支援センター あちえつとほ一む』

地域の他の福祉サービスが充実してきたこともあり、ここ数年稼働率が低迷してきている中、前年度から継続してきた利用者支援のテーマ「つながり」「ひろがり」に加え、本年度は「はじまり」に目を向け、地域の有効な資源になることを強く意識して活動してきた。

このような状況を改善するために、提供するプログラムの選択肢を増やすことを目的に他の事業所と積極的につながりを持ち情報交換に努めた。この活動を通して障害種別に対応したプログラムの再検討を進めた。

次年度はボランティア確保に努めつつ、新たなプログラムを活用し積極的に利用者確保を進める。

##### ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 25 年度	4	0	115	19
平成 26 年度	3	1	117	
平成 27 年度	4	17	104	

※H27 年度退所者：他施設 5 名、自宅 9 名、病院 2 名、死亡 1 名

##### イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25 年度	14	68	6	26	11	0	115 (10)
H26 年度	15	66	5	24	7	0	117 (10)
H27 年度	15	63	2	18	6	0	104 (8)

( ) 内は重複障害再掲

##### ウ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25 年度	0	6	22	21	18	48	115	54.4 歳
H26 年度	0	5	21	22	19	50	117	55.7 歳
H27 年度	0	4	15	15	17	53	104	56.7 歳

##### エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
19	H25 年度	263	4,576	17.4	91.7%
	H26 年度	265	4,443	16.9	89.2%
	H27 年度	262	3,857	14.7	77.5%

オ ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数	備 考
講師	91	音楽、ピアフラワー、点字、太極拳
パソコン	594	
活動	196	
イベント支援	30	福祉祭り、交流フェスタ、外出訓練

5 放課後等デイサービス 『わくわくキッズ』

前期は、中高を対象とした新たな事業所「わくわくステップ」の開設準備に取り組んだ。開設当初は、中高生の多くがそちらに移行することとなったが、新規利用者の確保と現利用者の登録日変更等により、事業的に大きく低迷することはなかった。

しかし、利用対象は大きく変化したため、活動内容を見直すよい機会と捉え、利用者・家族のニーズを掴み、より充実した活動内容の検討を進めている。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 25 年度	6	5	41	10
平成 26 年度	4	4	41	
平成 27 年度	7	8	40	

※H27 年度退所者：法人内他施設 2 名、他施設 4 名、自宅 1 名、卒業 1 名

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	知的	精神	その他	合計
H25 年度	0	17	39	0	0	41 (15)
H26 年度	0	17	39	0	0	41 (15)
H27 年度	0	16	38	1	0	40 (15)

( ) 内は重複障害再掲

ウ 利用児童の学校別の人数：合計 40 名

港養護	南養護	港楽小	大手小	稲永小	正保小	東築地小	東海小	篠原小	中学校
14 名	3 名	4 名	1 名	3 名	1 名	4 名	1 名	1 名	8 名

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
10	H25 年度	251	2,885	11.5	115%
	H26 年度	252	2,907	11.5	115%
	H27 年度	248	2,688	10.8	108%

オ ボランティア・講師活動状況

火曜日	一緒にピアノに合わせて歌う	1名
金曜日	(講師として) キッドボックス(月2回)	1名
水曜日	(講師として) 音楽療法(月2回)	2名
月1回	人形を使って、一緒に歌う	1名
年間で	ツアー・各月の行事参加	5~10名

6 放課後等デイサービス 『わくわくステップ』

平成27年10月に主たる対象を中高生としてスタートし、徐々にではあるが利用者も増え、活気ある活動が始まっている。事業目的のひとつとしている就労を意識した活動は、利用者・保護者からも好評を得ており、運営していく上での自信につながっている。曜日利用に偏りがでてくる等、課題も出てきているため、次年度は活動の取り組み方の見直しをはかり、更に利用者・家族から喜ばれる活動内容を構築する。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成27年度	14	0	14	10

イ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	知的	精神	その他	合計
H27年度	0	4	13	0	0	14(3)

( ) 内は重複障害再掲

ウ 利用児童の学校別の人数：合計14名

港養護	南養護	港南中	東港中	日比野中	沢上中	港北中	稲永小
3名	2名	4名	1名	1名	1名	1名	1名

エ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
10	H27年度	129	598	4.6	46%

オ ボランティア・講師活動状況

火曜日・木曜日	(講師として) 音楽療法(月2回)	1名
土曜日	(講師として) 陶芸(3/26のみ)	1名

## 7 相談支援事業 『明和障害者相談センター』

相談員 4 名(兼務 1 名)で、障害者・障害児の方の生活面、就労面、様々な相談をうけている。

本年度は、知識習得に加え、障害児の相談支援の充実を図る目的から、各特別支援学校、特別支援学級の教員の方と密に情報交換するなどネットワーク作りを強化した。また、業務の効率化をはかるため、専用ソフトを活用して計画書を作成した。

### ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(人)	
			障害者	障害児
H25 年度	302	446	285	8
H26 年度	364	630	315	32
H27 年度	333	527	303	38

## 8 基幹相談支援センター 『港区障害者基幹相談支援センター』

本年度は、障害者自立支援連絡協議会が主体となり地域住民と交流できる機会として、4 区（港・熱田・中村・中川）合同での交流イベントの開催、港区内の商業施設における区内の授産製品販売などの新たな試みを実施した。

4 区合同の交流イベントでは、開催会場を大学としたことにより学生を含めた地域住民との関わりを深められたことは大きな成果であった。

こうした地域での啓発活動、各学区における民生児童委員協議会への参加を通じ、地域における課題が民生委員から直接センターにも挙げられるようになり、地域と共に課題解決に向けた支援体制が整いつつある。

また、基幹相談支援センターの役割、機能を地域に周知できるようホームページを開設した。事業の説明に限らず障害者自立支援連絡協議会の活動報告や地域における各種行事の掲載を行うことにより、より多くの地域の方に港区内の社会資源を伝えることができた。

### ア 相談実績件数

	訪問相談支援	外来相談支援	自立支援協議会	実績合計数
H25 年度	837 (12)	1,934 (1)	31	2,771 (13)
H26 年度	844 (12)	2,252 (2)	41	3,096 (14)
H27 年度	847 (12)	2,333 (3)	40	3,220 (15)

※（ ）内は視覚ピアカウンセラーによる支援を再掲（ピアフラワー講座含む）

※外来相談支援には電話・電子メール等も含む。なお記載は 10 分以上の相談をカウント。

## 9 障害者就業・生活支援センター事業

### 『海部障害者就業・生活支援センター』

本年度は圏域へ情報発信していく時期と捉えて活動してきた。

前年度より関連機関との情報共有ネットワーク構築を進めてきたが、求人情報や研修案内などを主として情報のやり取りができた。また、圏域内就労系事業所へ声をかけて研修会を開くなど顔の見えるネットワークづくりも進んでいる。

企業向けの発信としては、障害者雇用に関してハローワークと企画を進める予定だったが調整が進まず、次年度へ持ち越すこととなった。同時に進めていた企業向け情報交換会の準備は進んでおり、次年度実施の予定である。

一方、スタッフの資質向上を念頭に、対外研修や会議への参加を積極的に進めると共に、内部勉強会を実施。現在のコーディネーターは4名体制、支援対象者は今年度の新規102名を加え470名となった。相談内容は複雑化し対応の難しさを増しているが、スタッフ個々の知識・スキルアップを図ると同時にセンター全体のレベルアップを図るべく取り組んできた。

発信を意識する中で、障害当事者や関係者に対しては行政や福祉関係者を通じ広報が進んできたが、福祉を離れた場（学校や企業）においては、ようやく情報が届きだした状態とも感じる。情報の届き難い方々への発信は今後の課題である。

#### ア 支援対象障害者に対する相談・支援件数(手段別) (件)

センターへの来所 (本人のほか、家族等も含む)	501
電話・Fax・E-mail (本人、家族等からの電話のほか、センターからの電話も含む)	1,348
職場訪問 (定着支援のほか、職場実習支援を含む)	303
家庭・入所施設への訪問	5
その他 (ハローワークへの同行訪問、各種手続きの支援、ケース会議への参加等)	441
合計	2,598

#### ※「その他」の具体的な支援内容

ハローワークへの同行(登録支援、求人検索、失業保険申請手続き etc)、受給者証手続き、履歴書作成、事業所見学、年金相談、手帳取得、自己破産など

イ 支援対象障害者に対する相談・支援件数(内容別) ※ ( )内は前年度実績 (件)

	身体 障害	知的 障害	精神 障害	その他				合計	
				発達 障害	難 病	高次 脳機 能障 害	その 他		
H25年度計	223	1,013	604	261	36	119	21	2,277	
H26年度計	411	1,005	1,012	322	29	64	171	3,014	
H27年度計	336	871	780	345	3	59	204	2,598	
H 27 年 度 内 訳	就職に向けた相 談・支援	261 (325)	312 (379)	404 (517)	144 (107)	3 (20)	23 (10)	140 (111)	1,287 (1,469)
	職場定着に向けた 相談・支援	36 (57)	346 (368)	129 (200)	160 (136)	0 (0)	20 (26)	7 (5)	698 (792)
	日常生活、社会生活 に関する相談・支援	8 (13)	69 (76)	82 (92)	3 (12)	0 (2)	6 (9)	28 (23)	196 (227)
	就業と生活の両方 にわたる相談・支援	10 (7)	91 (93)	115 (123)	16 (17)	0 (5)	5 (16)	18 (13)	255 (274)
	その他	21 (9)	53 (89)	50 (80)	22 (50)	0 (2)	5 (3)	11 (19)	162 (252)

#### IV 港ワークキャンパス 拠点

障害福祉サービス事業	『港ワークキャンパス』
就労継続支援事業A型	ライトハウス名古屋金属工場
就労継続支援事業B型	KAN食品開発センター、かんせい工房
福祉ホーム	『みなと』
相談支援事業	『港ワーク障害者相談センター』

#### 1 障害福祉サービス事業 『港ワークキャンパス』(多機能型)

##### (1) 就労継続支援事業A型 「ライトハウス名古屋金属工場」

日本経済は企業収益が好調で雇用も改善が進み景気回復基調になったが、中小企業の経営は依然厳しい状況である。大口取引先はその状況下でも落ち込みはなかったが、昨年からは始まった新規製品納入先が2社購買になったということもあり、昨年度よりは数量が落ち込んだ。営業戦略としてダイレクトメールによるPR活動での新規取引企業の開拓や既存取引企業からの受注増を実現でき、何とか売上計画に対し97%とまずまずの着地となった。

次年度は同業他社の工場の新設や商流の変化等、更に厳しい状況になると予測され



るため、他社動向の情報をとりつつ戦略を立てて行動していく。

また、既存商品だけではなくお客の要望に添える商品を製造できるような自社努力が求められるため、機器整備を進めつつ新製品の開発にも力を注ぐ。

工場内においては、安全性や作業性を上げることで、効率化・利益率のアップを図るため5S活動に取り組んだ。取り組んだ件数は37件で、取り組み内容の内訳は、整理24件・整頓16件・清掃2件・清潔2件・躰3件（重複あり）となった。

取り組みを行うことで、安全性と作業性について日頃から意識できるようになり、効率化にもつながった。今後も継続的に5S活動を行い、更なる効率化・利益率アップにつなげていく。

ア 工賃支払状況 在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者(人)			工賃（年間総支給額÷12）(円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成25年度計	65	3	69	166,936	58,508	106,759
平成26年度計	66	4	69	174,175	54,437	112,704
平成27年度計	64	3	67	168,178	45,636	113,017

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

金属加工事業	ブリキ缶製造：160万3537缶出荷
下請作業	解体作業：2万4千kg ・セットアップ作業（※B型作業応援）

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成25年度	8	2	69	60
平成26年度	7	7	69	
平成27年度	2	4	67	

※H27年度退所者：一般就労2名、他施設1名、死亡1名

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25年度	6	27	2	29	5	4	69(4)
H26年度	8	24	2	29	6	4	69(4)
H27年度	8	24	2	28	5	4	67(4)

( ) 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H25年度	53	6	8	2	0	0	0	69
H26年度	54	6	7	2	0	0	0	69
H27年度	53	6	6	2	0	0	0	67

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	5	9	15	11	21	8	69	42.1歳
H26年度	3	13	12	14	20	7	69	41.8歳
H27年度	3	13	11	14	20	6	67	41.6歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
60	H25年度	254	15,647	61.6	102.7%
	H26年度	254	16,207	63.8	106.3%
	H27年度	255	15,681	61.5	102.5%

(2) 就労継続支援事業B型 「KAN 食品開発センター」「かんせい工房」

震災から5年の本年度、賞味期限が5年の備蓄製品がどの様に入替わっていくのか判断の付きにくく上半期は低調な滑り出しだったものの、後半から入替えを含めた入札案件が早い段階で動き出し、例年より1ヶ月早く年度末出荷が満杯状態になり、年明け第2週からフル生産体制を敷き、収益的にはほぼ計画通りに着地した。

今年度の新たな動きとして豊田市で「国産小麦+米粉」を原料とした地産地消のパン缶を製造する話が進み、協力企業・農協・行政・地元福祉施設と一体化して防災備蓄の入替えを今後3ヶ年続けて行うことが決定。次年度はこの製造ビジネスモデルを東海3県から全国へ広げる戦略を練る。

また今年度、関西地域及び一部の自衛隊備蓄が「ブリキの食缶」から「紙製の容器」へ変更されたことで、市場はエコ容器へ大きく動く可能性を含んでいる。28年度中には製品化を完成し市場へ参入する計画を進めている。

「かんせい工房」を含め8名の新たな利用者を迎えたが、退所者が思った以上に続き38名で年度を終了した。28年度は新卒者を含めて43名でスタートする予定だが60名体制を目指す意味でも作業の効率化より作業の広がりを目指し車イス利用者にも仕事をしていただける環境を整えていく。

更に、地域の方々に広く施設を知っていただく機会を作るためにも今後は地域の行事（イベント出展等）にはできる範囲で積極的に参加していく。

ア 工賃支払状況

在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者(人)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成 25 年度 計	14	15	29	76,550	24,625	49,350
平成 26 年度 計	13	21	34	77,238	13,170	45,360
平成 27 年度 計	19	19	38	82,170	5,851	42,187

イ 就労事業 (生産物等) の状況 (概要)

パンの缶詰 製造事業	販売缶数：588,800 缶 (内製 571,000 缶、外注仕入 17,800 缶)
下請作業	菓子袋詰め作業 220,000 個 (イベント用、自衛隊装備品等) カレーレトルト袋詰め作業：10,530 個 レトルト加工 (どて煮等)：2,386 個 コンニャク加工：11,518 個 風船袋詰め作業：231,776 個 ハーブ・緑茶袋詰め作業：34,740 個

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 25 年度	7	1	29	40
平成 26 年度	8	3	34	
平成 27 年度	8	4	38	

※H27 年度退所者：他施設 2 名、自宅 1 名、死亡 1 名

エ 障害別状況 (年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25 年度	4	5	2	15	3	1	29(1)
H26 年度	4	7	1	22	3	1	34(4)
H27 年度	4	6	0	24	6	1	38(3)

( ) 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分 (年度末時点)

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H25 年度	15	1	6	3	4	0	0	29
H26 年度	15	2	9	4	4	0	0	34
H27 年度	15	4	11	4	4	0	0	38

カ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	3	7	5	5	5	4	29	36.5歳
H26年度	7	9	3	6	5	4	34	36.6歳
H27年度	9	9	3	6	5	6	38	37.1歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
40	H25年度	252	5,999	23.8	59.5%
	H26年度	252	6,854	27.2	68.0%
	H27年度	252	7,928	31.5	78.7%

2 福祉ホーム 『みなと』

市営住宅への転居希望には、申し込み支援を継続して行った。ホーム各階のトイレは就労と共用であるため清掃回数を増やすなど快適性を保つよう工夫した。

ヘルパーを利用した居室内の支援の利用頻度が増えている。今後も声かけや相談等、居住者が安心して暮らせる環境を整えていく。

今後の課題としては、災害の際の避難方法、障害状況に合わせた避難方法や避難経路をより考慮し、更に暮らしに安心感を持つことができるように努める。

ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成25年度	1	1	19	20
平成26年度	0	2	17	
平成27年度	0	0	17	

イ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25年度	5	13	1	0	0	0	19
H26年度	5	11	1	0	0	0	17
H27年度	5	11	1	0	0	0	17

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H25年度	11	1	3	3	0	1	0	19
H26年度	10	1	2	3	0	1	0	17
H27年度	10	1	2	3	0	1	0	17

エ 年齢構成（年度末時点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H25年度	1	2	2	3	5	6	19	49.3歳
H26年度	0	3	0	3	6	5	17	49.0歳
H27年度	0	3	0	3	6	5	17	50.0歳

### 3 相談支援事業 『港ワーク障害者相談センター』

事業開始から4年、利用者との関係も深まり計画に関するだけでなく、家族について、お金のことなど、生活の中の困りごと等様々な相談を受けることも増えてきた。そのため事業所のサービス管理責任者だけでなく、近隣病院や生活保護担当のケースワーカー、保健師、学校など関係機関との関係もでき、連携をとった支援ができた。また、素早い対応が必要な利用者については2人の相談員がお互いのケースを把握してどちらでも対応ができる体制を作って支援した。障害者およびその家族の高齢化、既存サービスでは対応が困難なケースなど、地域と連携しながら解決方法を検討するケースも増えており、地域課題を解決するような活動の強化が今後の重点課題となっている。

ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(人)	
			障害者	障害児
H25年度	152	291	157	0
H26年度	123	271	130	0
H27年度	122	324	164	0

## V 緑風 拠点

就労継続支援事業B型  
相談支援事業

『緑風』  
『りょくふう障害者相談センター』

平成23年の開設から丸5年が経過した。厳しかった運営状況も年を追うごとに改善して今年度は一定の成績を残すことができた。5年目にして安定した運営体制が整ったといえる。

利用者数も着実に増え、現在47名の方にご利用いただいている。職員数も総員12名となり、充実した支援が可能となった。

利用者の増加に加え、新たな取り組みである「土曜開所日の増加」「施設外就労の定着」も、運営の安定化につながっている。

昼食の選択メニューが好評。二つのメニューから選べるため利用者の嗜好にも応えることができ、残食の軽減につながっている。アレルギーの代替にもなるため得るところが大きい。

北側敷地で計画している新事業は、名古屋市住宅都市局との見解の相違で進展していなかったが、協議の結果一定の目処が立った。今後具体的な立案を進める。

### 1 就労継続支援事業B型 『緑風』

利用者の障害種別は「知的53%」「身体31%」「精神16%」と、知的障害の方が前年度の47%から増加して半数を上回った。障害特性の多様性が増しており、さまざまな利用計画のもと「あなたらしい就労スタイル」を尊重して支援を続けている。47名の利用者のうち毎日通勤される方が30名、曜日を決めて利用される方が17名となっている。また47人中16名が体調等に合わせて短時間勤務で働いている。

今後も「あなたらしい就労スタイル」を尊重しつつ、その先の前進につながる支援を続けていく。

作業面では、既存取引先の受注がすべて前年を上回り、前年比116%と売上を伸ばした。また、前年度スタートした施設外就労は先方と業務請負契約を結ぶことができ、作業日も増やすことができた。現在は毎日稼働している。

#### ア 工賃支払状況

在籍者は期末現在、工賃は年間在籍者のみ

科目	在籍者(人)			工賃 (年間総支給額÷12) (円)		
	男	女	計	最高	最低	平均
平成25年度	32	5	37	24,664	446	7,657
平成26年度	37	5	42	25,056	701	8,936
平成27年度	38	8	46	31,066	1,007	7,897

イ 就労事業（生産物等）の状況（概要）

軽作業科	下請け作業としての年間生産数 ・くまで組立 18,800 本・ほうき組 39,500 個 （その他清掃用品 6 種類の組付、加工、袋入れ） ・DMチラシ 1,411,000 枚・洗濯物畳み 1,300,000 枚など 施設外作業（清掃業務） ・年間 232 日
------	---

ウ 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 25 年度	9	2	37	40
平成 26 年度	5	0	42	
平成 27 年度	8	4	46	

※H27 年度退所者：他施設 3 名、死亡 1 名

エ 障害別状況（年度末時点）

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H25 年度	1	17	1	19	7	0	37 (8)
H26 年度	1	15	1	22	10	0	42 (7)
H27 年度	1	15	1	27	10	0	46 (8)

( ) 内は重複障害再掲

オ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H25 年度	12	1	8	11	4	1	0	37
H26 年度	12	1	8	14	6	1	0	42
H27 年度	18	2	5	13	7	1	0	46

カ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H25 年度	3	4	9	12	7	2	37	40.8 歳
H26 年度	0	6	13	10	9	4	42	41.6 歳
H27 年度	5	5	13	11	8	4	46	39.6 歳

キ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
40 ※H25.7 までは 20	H25 年度	254	6,727	26.9	67.3%
	H26 年度	254	7,520	29.6	74.0%
	H27 年度	258	8,926	34.6	86.5%

## ク ボランティア活動状況

活動内容	延べ人数
作業支援	303名
レク介助	27名
掃除	75名

## 2 相談支援事業 『りよくふう障害者相談センター』

既存、新規に関わらず、各機関や他事業所の特色を把握するため、千種区相談支援運営連絡会等にも積極的に参加し関係性の強化に努めたことで、さまざまなケースに対応することができた。

また、利用者が安心した地域生活を送れるよう、目に見える成果にはつながらなくとも、日常生活上の困りごとや、孤独感や不安感に関する相談に対応して、悩みを抱える方々に寄り添うことを一番に考え行動した。

### ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(人)	
			障害者	障害児
H25年度	52	88	65	3
H26年度	67	144	80	3
H27年度	86	179	85	1

## VI 戸田川グリーンヴィレッジ 拠点

障害者支援施設	『戸田川グリーンヴィレッジ』
生活介護事業	
施設入所支援	
短期入所事業	
通所生活介護事業	木の香
相談支援事業	『戸田川障害者相談センター』

利用率は入所 94.5%（前年対比 100%）、生活介護 99.7%（前年対比 100%）、短期入所 90.5%（前年対比 101%）と職員の努力により安定的に推移した。

入所では1名がサービス付き高齢者住宅へ、1名が重心施設へ移行し、1名が職員協働でのターミナルケアの末緩和病棟で死去、1名が重症化により病院にて死去した。新たに地域移行を目的とした比較的自立度の高い2名と重症の利用者が入所した。



利用者は重症化による機能低下から嚥下に配慮のいる方や通院介助の必要な方などが増え、早期発見と対応を考え実践を続けた。一方で利用者の自己実現したい、他者とうまく関わりたい、尊厳を認めてほしいなど潜在的ニーズの高まりもあった。これは相談員の“みんなの輪”やグループでの日中活動や個別支援などを通して相互理解の段階が上がったことによるものと考察する。

また、今年度より再編した 16 の委員会は若手中心に運営を続け、課題解決や新しい発想の具現化の役割を果たし始めている。人権委員会では全職員のメッセージ入りの「良いところカード」をご本人に手渡し、朝のミーティングで感想を言うという取り組みを行い、他者からの言葉を通して自己理解が深められたと考える。

## 1 障害者支援施設 『戸田川グリーンヴィレッジ』

### (1) 生活介護・施設入所支援事業

今年も満足度調査、嗜好調査、人権アンケートを実施し、課題について全職員で振り返ることができた。また、サービスの質の向上を目指して大学講師による芸術出前講座（紙粘土）や地域の似顔絵描きの講師ボランティアに日中活動に参画していただき、新しいご縁が結べた。

また、身障協全国大会で「あなたらしい自己決定～あなたの「食べたい」に寄り添う～」という演題で看護師が初の研究発表に挑戦した。東海北陸大会では「あなたらしい暮らしへ～多職種協働での日中活動を模索し続けて～」と題して開設からの日中活動の変遷と課題を生活支援員が報告した。

新たに地域交流食事会を 2 回開催し、延 25 名の参加があった。障害者との関わり方を学びたい、交流を通じて貢献したいなどの地域ニーズを知ることができた。

外部研修へ積極的に参加し、身体障害者施設協議会研究大会（全国、東海北陸）でそれぞれ研究発表を行った。専門的な研修は 3 号喀痰吸引（3 名）、キャリアパス研修（初任者・中堅・リーダー 計 5 名）、介護福祉士実習指導者研修（1 名）、相談支援専門員初任者研修（1 名）、各専門職団体・名古屋市社協（参加延 45 名）、グローイング・アカデミー（62 回）、他法人との交流研修（2 名）のほか、法人内研修にも参加してきた。施設内研修等（オムツについて、食事介助、高次脳機能障害、救命講習、認知症、ターミナルケア、嚥下について等 参加者延 163 名）も定期的に開催してきた。

### ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定 員
平成 25 年度	1	1	40	40
平成 26 年度	3	3	40	
平成 27 年度	3	4	39	

※H27 年度退所者：在宅 1 名、他施設 1 名、病院 1 名、死亡 1 名

イ 障害別状況（年度末時点）

（ ）内は重複障害再掲

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
脳性まひ	22(16)	23(15)	22 (15)
脳障害後遺症	4(1)	4(2)	5 (3)
頸髄損傷	3	2	2
二分脊椎	1(1)	1(1)	2 (1)
化膿性脊髄炎	1(1)	1(1)	1 (1)
視覚障害	2(2)	2(2)	2 (2)
リウマチ	1	1	1
筋ジストロフィー	2	2	2
ハンチントン病	1	1(1)	0
パーキンソン症候群	1(1)	1 (1)	1 (1)
多発性硬化症	1	1	1
脊髄小脳変性症	1	1(1)	0
知的障害	21	22	22
精神障害	1	1	1
合 計	40(22)	40(23)	39 (23)

\*最も顕著な障害で分類

ウ 障害支援区分（年度末時点）

	未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
H25 年度	0	0	0	1	1	5	33	40
H26 年度	0	0	0	0	4	5	31	40
H27 年度	0	0	0	0	2	6	31	39

エ 年齢構成（年度末時点）

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 以上	計	平均
H25 年度	0	2	2	11	16	9	40	51.3 歳
H26 年度	0	1	3	9	16	11	40	51.9 歳
H27 年度	0	2	3	9	16	9	39	51.9 歳

オ 生活介護 利用状況（短期入所利用者の日中利用含む）

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率
40	H25 年度	313	12,613	40.3	100.7%
	H26 年度	310	12,355	39.9	99.7%
	H27 年度	313	12,539	40.1	100.2%

カ 施設入所支援 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
40	H25年度	365	14,095	38.6	96.5%
	H26年度	365	13,794	37.8	94.5%
	H27年度	366	13,993	38.2	95.6%

キ ボランティア活動状況

活動内容	活動回数	実人数	延人数
パソコン講座	45回	3名	45名
組紐	22回	5名	102名
歌謡舞踊	1回	2名	2名
裁縫	13回	1名	13名
イベント食	1回	15名	15名
琴演奏	1回	2名	2名
サマボラ	5回	2名	10名
秋祭り	1回	33名	33名
音楽会	1回	4名	4名
芸術活動	3回	1名	3名
似顔絵	9回	1名	9名
食事会	1回	1名	1名
合計	103回	70名	239名

(2) 短期入所事業

新規利用者は安定的に増加している。毎月60名程度の方の定期利用に加え、緊急や長期利用が必要なケースも積極的に受け入れた。

新規利用者が増えたことや今までの利用者の状況の変化等により、支援の個別性・多様性が増し、時には従来の仕組みを改善させながら支援を行った。今後も地域ニーズの大きさを意識し、支援者・他事業所とも連携しながら多面的に支援していく。

ア 短期入所及び通所利用状況

	利用人数	延べ 利用者数	1日平均 利用者数	利用率	通所利用 人数	通所利用 延べ日数
H25年度	629	2,530	6.9	86.6%	113	374
H26年度	682	2,635	7.2	90.0%	59	76
H27年度	678	2,717	7.4	92.8%	35	35

### (3) 通所生活介護事業 「木の香」

本年度は新たに6名の利用者を受け入れ、在籍者のうち6名の日数増加に繋がった。施設入所や入院に伴う退所が3名あったが、年度当初の1日平均利用者数3.2名から年度末には4.9名に増加した。4月に送迎範囲の拡大を実施し利用促進に繋がった。

新たな試みとし7月に家族、利用者との交流を目的とした夕涼み会や利用者の個別外出を実施した。また、夏期に特別支援学校の実習生5名を受け入れた。11月に満足度調査、嗜好調査を実施、個別のニーズに応じていくため毎日職員ミーティングを行い支援方法を協議している。

喀痰吸引3号研修の支援員の受講(3名)で医療的ケアの必要な利用者の受け入れに向け看護師と連携し体制を整えている。関係機関との連携ではサービス担当者会議への参加を積極的に行い、情報交換に努めている。

今後は、利用者増加に向け特別支援学校、基幹相談支援センター等、関係機関との連携を強化し、新たなニーズに対応できる体制や環境整備を進める。また、地域生活を送るうえで生活全般に課題を抱える利用者も多く見られ、将来を見据えた支援が必要になってくるため職員の支援力・資質の向上を図るとともに、他機関との連携を強化していく。

#### ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成26年度	17	1	16	10
平成27年度	6	3	19	

※H27年度退所者：他施設2名、病院1名

#### イ 障害別状況(年度末時点)

	視覚	肢体	その他身体	知的	精神	その他	合計
H26年度	2	14	0	13	2	0	16(15)
H27年度	1	16	0	15	2	0	19(15)

( )内は重複障害再掲

#### ウ 障害支援区分(年度末時点)

	未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
H26年度	0	0	0	0	4	2	10	16
H27年度	0	0	0	1	4	2	12	19

#### エ 年齢構成(年度末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60以上	計	平均
H26年度	0	4	5	6	0	1	16	37.3歳
H27年度	1	4	4	6	2	2	19	38.4歳

## オ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1日平均 利用者数(名)	利用率
10	H26年度	240	853	3.6	35.5%
	H27年度	241	889	3.7	36.9%

### (4) 各部門報告

#### ①介護部門

班会議・班長会議では看護・相談員・栄養士など他部署に参加要請し、早急な利用者支援の見直しや職員育成につなげた。また、職員育成では施設全体の課題に合わせた施設内研修の実施、本人の課題に合わせた外部研修への参加及び施設内での個別指導を実施した。支援員の支援力の向上についてはリフトの使用を推進し、利用者・職員共に身体的負担の軽減を目指した。また、利用者の生活環境の整備に力を入れ、清掃チェックリストの活用、環境部門との連携を行った。個別支援計画作成の担当人数を見直し、本人からの聴き取り、各職種との連携を重視しじっくりと取り組めるよう体制を整備した。今後も利用者状況の変化（高齢化・重度化）を視野に入れた支援体制の見直しを行う。

#### ②看護部門

4、5月に職員の食事介助の不安解消と支援力の向上として目的として、東洋病院の言語聴覚士、施設の管理栄養士による食事介助などのコンサルテーションを行った。

地域貢献活動として地域の方々に普通救命講習を行う準備のため、看護師の応急手当普及員資格を2名取得した（資格取得者合計3名）。次年度、地域交流委員会と連携し地域の方向けに救命講習を予定している。7月に職員向けに普通救命講習を実施、また9ヶ月に渡り施設にて利用者のターミナルケアを行った。同時に職員にはターミナルケアの研修を行い、また病院と行政との連絡調整を行い、看取ることができた。11月には愛知県身体障害者施設協議会にて介護職員の痰吸引等の講師を務め、次年度の以降の痰吸引研修の日程・役割分担調整を行った。

1月に利用者の身体機能の低下と医療行為増加のため看護師の業務・勤務体制を見直した。

#### ③セラピスト部門

セラピスト部門の骨格となるリハビリ業務（個別・集団・生活）は定期的に行い、利用者の身体機能維持・日常生活動作維持に努めた。進行性疾患や加齢・活動量不足による日常生活動作低下が見られる利用者も見られたが、その能力に合わせた環境や動作を看護師や生活支援員と考え支援を行った。

リハビリ業務以外にも補装具(車椅子、装具)、福祉用具、介護ロボット支援事業の対応、生活支援補助業務、また安全対策委員会や新サービス実行委員、秋祭り実

行委員、相談支援専門員の資格取得等を実施し、少しずつではあるが、成果・実績も出てきている。

次年度も引き続き、日中活動内での集団活動、中規模コーラス活動・嚙下体操・個別活動を実施。日々の生活への楽しみ・やりがい支援、身体機能維持へ繋がるように努める。また地域交流音楽会や箏曲演奏会を通しより多くの方に戸田川グリーンヴィレッジを知ってもらえるよう動いていく。

#### ④給食部門

栄養士が見本市などに参加し食材の検討を継続的に行うことで、定期的に新しい献立を入れ、バリエーションを増やしながらか献立のマンネリ化を防ぎ、いつまでも利用者にとって食事を楽しめる環境を提供すべく献立の見直しを行った。

職員に様々な食形態で検食していただき、また看護師協力の元、食形態の研修等を行うと共に、介助者の理解を深めていくことに努め、アンケート結果などを取りまとめ、今後の検討材料とすることができた。

#### ⑤事務部門

施設のエコ委員会を中心に全体に節減を働きかけたこともあり、また、節電にはLED照明などの設備投資を図るなどして光熱費8.7%減を果たしたが、組織変更による事務機器の購入や寄附金の活用による利用者関連備品の購入で消耗品費は5.4%増となり、十分な成果とはいえなかった。

また労務管理について、勤怠の管理を事務員2名で確認し適正な処理・把握ができる仕組みにした。職員不足となる時期も少なく、施設全体で見ると部署毎に偏りはあるものの、職員の有給休暇の取得率が向上した。

#### ⑥喫茶部門

利用者の憩いの場、コミュニケーションの場となっており、対人関係が不得意な利用者も自然と話の輪に加われるようになっている。

#### ⑦環境部門

環境部門で利用者居室清掃の時間を設定した(週1日)。環境部門だけではなく、美化委員会、感染委員会を中心に施設全体で生活環境の向上に取り組んでいる。2、3月では洗濯職員の長期休業があったが、各部門の協力にて業務が行えた。

## 2 相談支援事業 『戸田川障害者相談センター』

本年度新規契約数は23件。障害者基幹相談支援センターからの紹介が9件、病院からの紹介が4件、名古屋市総合リハビリテーションセンターからの紹介が3件。その他、地域からの直接相談が7件であった。

制度の理解も進んだことにことに加え、年月を経た上での利用者と支援者との信頼関係の深まりから、支給量変更を伴わない日常的な一般相談が非常に多くなった。被

虐待ケースをはじめ、複雑な生活課題を持つケースも多く、行政や他機関、他事業所との連携が必要なケースもますます増えている。

#### ア 計画相談状況

	利用計画作成	モニタリング	年度末契約者数(人)	
			障害者	障害児
H25年度	100	160	111	2
H26年度	108	223	126	5
H27年度	119	203	130	3

## VII 名古屋盲人情報文化センター

### 視覚障害者情報提供施設 『名古屋盲人情報文化センター』

毎年開催となった用具展は、最新機種 of 機器の展示と、触るミュージアムとして名古屋ボストン美術館と南山大学人類学博物館の協力により盛況に行われた。図書館事業部では寄贈を受けた視覚障害者関係書物を受け入れ、目録を作成中。サービス事業部では、日常生活用具として読み上げ拡大読書器や点字ディスプレイが周知され、売り上げを大きく伸ばした。点字出版部では「やまびこ」創刊 600 号を迎えることができた。全体で販売管理ソフトの整備とともに、利用者の登録情報整備を 28 年度初めに行うための準備を進めた。

#### 1. 職員・ボランティア等

	職員		ボランティア			合計
	職員総数	内・視覚障がい者	音訳関係	点訳関係	その他	
H25年度	22	6	140	121	59	320
H26年度	20	5	134	119	56	309
H27年度	19	5	120	110	60	290

	ご寄付			
	個人	団体	～10万円	10万円～
H25年度	46	5	47	4
H26年度	40	3	42	1
H27年度	49	1	48	2

## 2. 図書館事業部

### (1) 生きた書棚のための蔵書管理

#### ①曝書の実施

書庫、サピエ・イントラ書誌の完全一致を最終目的とし、上半期にカセットテープ図書との照合を完了、下半期にデイジー図書の棚卸を実施し、書庫とイントラ書誌との照合を完了。28年度はサピエ書誌との照合に取り組む。

#### ②書庫内の手打ち点字図書のデータ化作業の完了

9月末、10年余取り組んできた書庫内の点字図書のデータ化作業が完了。2002年～2015年の間にデータ化した図書の総数は2,461タイトル10,909巻に上る。本事業により痛みの激しい図書や貴重な手打ち図書が点字データとなりその多くをサピエ図書館にアップし広く視覚障害者に提供できるようになった。(他施設ですでに点字データとなっていて状態がいいもの500タイトル弱は今後も点字図書のまま貸出・保管を行う)

#### ③「愛盲報恩会視覚障害者文庫」の受け入れ準備

原田氏からの視覚障害関連書籍、ビデオ、DVDおよそ3600タイトルの受け入れを行うべく書庫にスペースを設け、10月末に運び込みを完了。まずは原田氏から提供された書誌データの分類に従って書庫に収めた。28年度秋の開庫を目指し、3月17日、日本点字図書館の「視覚障害関係活字図書資料室(通称:奥村文庫)」を訪問し、開庫の情報収集を行った。

### (2) 利用者増加のための図書館キャンペーンの実施

#### ①B会員受け入れ要件の緩和

B会員(視覚表現の認識に困難のある方)の利用登録については当センターでは医師の診断書や教師の所見などを必須としていたが、特に識字障害などの発達障害を持つ人にとってこれは大きなハードルとなるため、10月より登録要件を緩和した。診断書・所見がない場合でも来館面談の上、「視覚表現の認識に困難がある」と判断できる場合は利用登録可能とした。その判断を客観的にすべくチェックリストの作成も併せて行った。

#### ②新しい雑誌の刊行

利用者の能動的な読書環境の一助とするため「みちしお」の発行月ではない奇数月に、点字・録音版で独自編集の新雑誌「本のトビラ」を5月より隔月で発行を開始。年度当初の目標通り隔月6回(5・7・9・11・1・3月)に発行でき、制作・発行の流れも軌道に乗せることができた。年度末日現在定期利用は点字版が10人、録音版(合成音声デイジー)が42人。号を重ねるごとに雑誌からの予約数も増え奇数月の貸出数の増加に繋がりがつつある。

#### ③地域の公共図書館との連携

「埋もれた利用者」の発掘を目的に地域の公共図書館にも「視覚障害者等」への情報提供の発信点の一つとなってもらうべく、その第1歩としてサピエ、障害者差別解消法などについての説明会を実施。



- ・ 4月23日（木）「愛知県公立図書館長協議会」  
会場：愛知県図書館  
対象：愛知県下の名古屋市外の公共図書館の館長  
内容（全10分）：障害者差別解消法、サピエなどの概要
- ・ 1月21日（木）「尾張部公共図書館連絡協議会例会」  
会場：武豊町立図書館  
対象：尾張地区にある公共図書館の職員（30名）  
内容（全90分）：障害者差別解消法、サピエの概要、名古屋盲人情報文化センターが提供できるサービス紹介。講演「誰にとっても〈身近な図書館〉に～地域の公共図書館に期待すること・願うこと」

#### ④読者交流会の実施

昨年度実施し、好評を博した読者交流会（本のトビラ）を11月9日に実施。今年度はボランティアの対象範囲を点訳にも広げ、利用者には参加しやすくなるようさらなる工夫を凝らし広報活動や内容の検討に意を用いた。昨年引き続き当日参加ができなくても推薦本を出してくれれば参加者となり、後日全員の推薦本をまとめた目録を利用者・ボランティア参加者全員に配布した。

- ・利用者：23名（当日参加12名）
- ・ボランティア：19名（当日参加11名）
- ・職員：6名（当日参加2名）

#### (3) プライベート資料の制作、および対面読書・代筆・墨訳サービス、プレクストーク個人講習の実施

- ・各種資料・教養講座等のテキスト・家電等の取り扱い説明書等、個人持ち込みの「プライベート制作物」の速やかな点訳・音訳を行うよう意を用いた。
- ・視覚障害者の情報保障の一助として当施設内にてマンツーマン形式の対面読書・代筆・墨訳サービス、プレクストークの個人講習を引き続き実施し、内容の充実を図った。

【プライベート資料の制作】 ※以下（）内は26年実績。

- ・点訳：71タイトル（76タイトル）
- ・音訳：11タイトル（13タイトル）

【対面読書、代筆・墨訳サービス、プレクストーク個人講習】

- ・対面読書サービス：4回（15回）
- ・プレクストーク個人講習：6回（9回）
- ・代筆・墨訳サービス：10回（6回）

#### (4) 点訳者・音訳者等、情報支援者の育成と研修

利用者へのサービス提供を良質かつ安定的に実施していくため、ボランティア向けに引き続き点訳・音訳関連の各種研修会・会議を多様に開催。

##### ①点訳・音訳ボランティア養成

点訳、音訳共、新規の養成講習を実施するため「広報名古屋2015年7月号」

で募集を行い、点訳は10月2日（金）から全22回、音訳は9月30日（水）から全22回講習会を実施。点訳は7名、音訳は5名、次年度実施のフォローアップに進むこととなり本格的な活動を目指すこととなった。

②テキストデイジー、メールマガジン（あいちホットタウンナビ）の活動強化

- ・9月27日（日）にイーブルなごやにて、発達障害児・親への講演会を行った。約15名が参加。後日この講演会がきっかけとなり成人の読書障害者向けの説明会の依頼を受けた。（以下、12/19参照）
- ・11月14日（土）、愛知大学にて実施された「第3回ぼらマッチ！なごや～あなたにマッチしたボランティアを見つけよう」に出展。ITに強い若年層のマンパワー獲得が第1の目的だったが、特別支援学校の先生方への情報提供の機会ともなった。
- ・12月19日（土）、「Yagoto Lugar」にてあいち発達障害サポートネットワークの企画で「LDのためのデイジーの活用方法」という各種デイジー、点字データの活用について講演会を行った。参加者は12名。成人の発達障害の方も数名、小学校の支援員、大学の先生など。ワイワイ文庫青版（著作権フリー）を借りていくなど、マルチメディアデイジーには一定の関心が集まった。

①蔵書

	点字図書		録音図書			
			テープ図書		CD図書	
	タイトル数	巻数	タイトル数	巻数	タイトル数	枚数
H25年度	7,481	28,078	5,289	32,090	7,530	7,676
H26年度	9,574	33,606	5,026	31,411	8,227	9,363
H27年度	8,049	31,665	5,179	31,807	8,995	9,172

②新規製作図書

ア. 蔵書

	点字図書		CD図書
	タイトル数（内リクエスト）	冊数	タイトル数（内リクエスト）
H25年度	283（7）	1,007	208（48）
H26年度	285（15）	1,153	215（70）
H27年度	294（15）	1,219	203（76）

イ. 雑誌

	点字		録音（CD）	
	月刊	隔月	月刊	隔月
H25年度	2種類 24タイトル	—	6種類 72タイトル	3種類 18タイトル
H26年度	2種類 24タイトル	—	6種類 72タイトル	3種類 18タイトル
H27年度	2種類 24タイトル	1種類 6タイトル	6種類 72タイトル	4種類 24タイトル

ウ. プライベート

	点字図書		CD図書
	タイトル数	冊数	タイトル数
H25年度	90	125	10
H26年度	76	95	13
H27年度	71	129	11

エ. サピエデータアップ状況

	点字データ		デージーデータ	
	アップタイトル数	アップ巻数	アップタイトル数	アップ時間
H25年度	415	1,651	285	2,391時間 38分
H26年度	375	1,487	273	2,287時間 37分
H27年度	340	1,443	266	2,347時間 10分

③ ボランティア養成

ア. 点訳ボランティア

	点訳者養成	フォローアップ <sup>°</sup> 講習	英語点訳
H25年度	1講座 16回 延べ 212名	—	1講座 23回 延べ 138名
H26年度	—	1講座 41回 延べ 364名	1講座 21回 延べ 126名
H27年度	1講座 22回 延べ 171名		1講座 20回 延べ 100名

イ. 音訳ボランティア

	音訳者養成講習	音訳技術 フォローアップ <sup>°</sup> 講習	校正者 養成講習 (フォローアップ <sup>°</sup> )	デージー編集者 養成講習
H25年度	22回 280名	7回 60名	1回 6名	—
H26年度	22回 231名	6回 73名	1回 4名	5回 25名
H27年度	22回 145名	4回 54名	1回 12名	—

	音訳学習会	各種専門講習	ボランティア向け プレストーク操作講習
H25年度	6回 215名	31回 650名	5回 31名
H26年度	6回 224名	31回 675名	7回 50名
H27年度	4回 143名	31回 737名	5回 43名

④貸出

ア. 登録者

	個人（内・サピエ）	団体
H25年度	2,287（629）	610
H26年度	2,420（711）	590
H27年度	2,501（591）	567

イ. 利用者

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者	実利用者	延利用者
H25年度	554	4,750	282	2,561	1,046	28,116
H26年度	464	3,898	270	1,804	1,028	31,421
H27年度	234	2,748	146	1,127	766	19,530

※H26年度途中から27年度にかけて集計対象の整理、見直しを実施し、集計対象者が減少。実際の利用者に大きな変動はない。

ウ. 資料貸出

	点字図書		録音テープ図書		CD図書	
	タイトル	冊数	タイトル	巻数	タイトル	枚数
H25年度	4,762	7,627	3,965	14,978	27,851	27,919
H26年度	3,898	7,306	1,804	7,766	31,421	31,488
H27年度	3,097	7,193	1,249	5,987	31,124	31,170

エ. オンラインリクエスト

	リクエスト送信数（施設）	リクエスト送信数（個人借受）	リクエスト送信数	リクエスト受信数
H25年度	1,668	3,914	5,582	5,468
H26年度	1,529	2,434	3,963	5,459
H27年度	1,593	2,529	4,122	5,990

オ. コンテンツ利用状況集計(点字データ)

	ダウン タイトル数	ダウン 巻数	ダウン 実利用者	ダウン 延べ利用者
H25年度	12,661	49,491	222	25,077
H26年度	16,329	66,904	198	26,179
H27年度	14,751	61,299	209	24,860

カ. コンテンツ利用状況集計(デジータ)

	再生 タイトル数	再生 時間	再生 実利用 者	再生 延べ利 用者	ダウン タイトル 数	ダウン 時間	ダウン 実利用 者	ダウン 延べ利 用者
H25 年度	6,242	7,071 時間 13分	122	21,458	17,802	140,992 時間 14分	331	93,087
H26 年度	11,288	10,067 時間 27分	148	35,876	20,161	158,678 時間 14分	358	116,510
H27 年度	13,193	10,276 時間 31分	155	37,672	26,351	212,045 時間 30分	370	144,470

キ. デイジーオンライン

	A会員		B会員		合計	
	実利用 者数	登録タイ トル数	実利用 者数	登録タイ トル数	実利用 者数	登録タイ トル数
H25年度	2	12	0	0	2	12
H26年度	2	2	0	0	2	2
H27年度	2	35	0	0	3	35

⑤情報提供

	ホームペー ジ 訪問者数	テレホン サービス	新聞 点訳	バリアフリー 映画会	メール マガジン
H25年度	8,517件	786件	31名	6回 264名	403件
H26年度	12,700件	836件	29名	5回 263名	185件
H27年度	10,933件	902件	32名	6回 269名	195件

	点字出力 サービス	対面読書 サービス	代筆・墨訳 サービス	利用者向け プレクストーク 個人講習	利用者向け プレクストーク 操作体験会
H25年度	8,243枚	13件	9件	13回 13名(9名)	7回 40名
H26年度	40,357枚	15件	6件	9回 9名(8名)	—
H27年度	19,600枚	4件	10件	6回 6名(6名)	2回 10名

カッコ内実人数

3. サービス事業部

(1) 社会参加・活動支援

引き続き点字触読定期学習会を毎週1回、社会生活力を高め生活を豊かにするための情報提供・学習の場である「MAJ講座」を月3回程度開催した。昨年度に比

べ回数・参加人数とも 2.5 倍と、MAJ（みんな あつまれ じょうぶんへ）の名の通り、センターへの集客イベントとしての役割、利用者への情報提供・レクリエーションの場としての役割を果たした。

また、継続して相談支援を実施するとともに、中途失明者緊急生活訓練事業（補助事業）において点字学習以外に「料理・お菓子教室」、「ぴあカウンセリング講座」を実施した。

## （2）用具斡旋販売事業

視覚障害者の毎日の生活が豊かで便利になるような新商品の開拓・紹介を積極的に行った。利用者へ補装具の制度・用具商品説明を丁寧にわかりやすく行うとともに、利用者の居住地に用具を紹介・説明できる社会資源を増やすことを目的として、関係機関向けの用具・図書館サービス説明会を開催し 3 年目、広く周知に努めた。

訪問販売では、これまでの盲学校、光和寮などの法人内施設や名古屋市総合リハビリテーションセンター等の関連施設に加え、地域の視覚障害者サークルや患者団体のイベントへ出かけ、当事者への用具の販売・情報提供を行った。

今年度は、点字ディスプレイや読み上げ拡大読書器の助成が周知され、高額商品のため用具売上げが 3 割上昇した。

## （3）I T 訓練支援

引き続き個人講習や I T 活用の相談に積極的に応じるとともに、スマートフォンについての情報発信・体験会活動にも取り組んだ。就労支援として、障害者職業能力開発校の委託訓練に取り組むとともに、その他の外部団体（職業センター、日盲社協、名古屋リハセン、愛視援、名視協、NPO タートル）と連携して当事者相談、セミナー・研修会での発表などに取り組んだ。

## （4）地域支援

引き続き小中学校等の福祉実践教室をはじめ、ガイド・点字体験、施設見学などの対応を行うとともに、社会福祉協議会等の関係機関が開催する関連講習会等に職員・ボランティアを派遣し、地域の視覚障害者に対する啓蒙活動を行った。

## （1）社会参加・活動支援

### ①相談支援

	相談支援		合 計
	継続支援(件)	新規支援 (件)	
H25 年度	93	99	192 件 (実人数 100 人)
H26 年度	116	104	220 件 (実人数 112 人)
H27 年度	105	69	174 件 (実人数 81 人)

	生活	コミュニケーション	就労	学業	ピアカン	家族	ロービジョン	移動	その他	計 (件)
H25年度	30	33	26	11	79	3	4	4	30	220
H26年度	60	15	25	5	64	18	1	29	36	253
H27年度	67	17	10	17	2	56	9	2	19	199

\*相談内容によって複数の項目でカウント

②中途失明者緊急生活訓練事業

	点字触読指導				料理・お菓子教室	
	回数	人数	うち新規	自主学习	延べ人数	講座数
H25年度	44	17	4	10名	56名	12
H26年度	44	18	5	20名	65名	12
H27年度	43	17	5	20名	70名	12

(2) IT訓練支援

	相談 (延人数)	個人指導 (延べ人数)	集団指導 (延べ人数)
H25年度	761	389	175
H26年度	715	215	192
H27年度	1,013	293	94

(3) 地域支援

	講師派遣等			見学対応		
	福祉実践	講義	計	小中高学校	その他施設	計
H25年度	3	20	23	1件	10件	11件 82名
H26年度	6	19	25	3件	14件	17件 145名
H27年度	5	18	23	4件	14件	18件 143名

(4) MAJ (みんなあつまれ情文へ) 講習

	回数	延べ人数
H25年度	10回	71名
H26年度	25回	176名
H27年度	32回	186名

(5) 用具サービス

	読書支援機器			
	フレクストーク(録音・再生)PTR2	フレクストーク(再生専用)PTN 1 /PTN2	拡大読書器	小型フレクストーク PTP1・リンクホケット
H25年度	36	52	49	50
H26年度	34	54	62	52
H27年度	50	33	68	35

	歩行・情報支援機器			
	白杖	ソフト1位	ソフト2位	ソフト3位
H25年度	434	PC-Talker(49)	MyMailⅢ(31)	ネットリーダー(22)
H26年度	407	PC-Talker(36)	ネットリーダー(16)	MyBookⅢ(16)
H27年度	385	PC-Talker(46)	ネットリーダー(26)	MyBookⅢ(13)

4. 点字出版事業部

事業計画にあげた「日本国憲法に関する解説本の発行」「触図解話題のご当地キャラクター本」「デジ版 100 選 全タイトルの仕様変更」は着手することができなかった。

一筆箋・クリスマスカード・干支シールなどの点字企画商品及び「やまびこ」「らしんばん」を通じ、触図製作を得意とする施設であることが利用者にも浸透しつつある。福祉実践教室で講師となる方から子ども達の視覚障害理解を深めるための触図入りしおりやカードを作ってほしいという依頼や、治療院を営む方から人体図の立体コピー化を希望されるなど、対個人のニーズに応える触図製作が増えた。まさに点字出版冥利に尽きることであった。

UV加工の点数が飛躍的に増加したのは、将棋同好会のネットワークで駒へのUV加工が評判となり、注文が増えたためである。将棋板マス目への加工にも対応したりと、こちらも出版のスローガンである「利用者のニーズに的確かつセンス良く業務に取り組む」ことができた結果であった。

大物の受注としては、点字電話帳4種(三河・尾張・名古屋・三重版)計1,430部と、郵便貯金のお知らせ2,400部を受け、夏場に一部が重なったが他部署の応援を得た残業体制のもと、滞りなく納めることができた。

教科書製作では高校教科1科目を受け持ち、殊、図表の表現には専門性を活かすことができた。

音訳編集体制の強化としては、専任者の他に2名が毎月定例の声の広報なごや編集に携わり、音声出版物の受注が見込まれる次年度以降に対応できる体力が整いつつある。

今年度特筆すべきは「やまびこ」が創刊50周年を迎えたことである。読者への記念企画として①復刻版を読者全員へ無料配布、②要望に応じた触図製作(抽選で2名)



を行った。読者数は減りつつあるが、やまびこを購入している全国 29 か所の点字図書館からそれぞれ複数の読者に読まれていることを思えば、まだまだベストセラーといえる域にあるため、グラビア触図はもちろん、発行日直前の週刊誌情報を届けられるよう製作過程は非常にタイトなものだが、引き続き内容充実に努めていく。

人材面では、6月からグラフィックデザインを学ぶ学生がアルバイト勤務で戦力となり、手薄になりがちな触図原案編集から作図製版までこなせる器用さで大いに活躍した。また1月からはアルバイトの触読者が加わり、これまで2名の触読者が校正や検品に明け暮れる状況を少しでも改善できる目途がたった。触読体制が整いつつあることは、次年度に向けた最も明るい材料となった。

## (1) 点字出版物製作

### ①オリジナル出版

	月刊誌 やまびこ	その他 出版物 (点字版)	その他 出版物 (録音版)	触図カード	年賀状 点図シール	一筆箋	エコ バッグ	ポチ袋
H25年度	1,105冊	3タイトル	45タイトル	126枚	1,395枚	100冊	4枚	85枚
H26年度	1,023冊	10タイトル	0タイトル	98枚	1,395枚	68冊	—	355枚
H27年度	993冊	13タイトル	0タイトル	130枚	1,307枚	36冊	—	293枚

### ②受注製作物 (定期刊行物・点字教科書)

	名古屋市 (広報なごや・市会だより)	他市町村 (広報とよた)	生活情報誌 らしんばん	点字教科書
H25年度	印刷 214,323枚	印刷 9,891枚	印刷 81,601枚	生徒0名 0科目
H26年度	194,435枚	10,880枚	79,212枚	生徒1名 2科目
H27年度	192,802枚	12,183枚	49,420枚	生徒1名 1科目

### ③その他受注製作物

	名古屋市はじめ市町村 (行政資料等)	施設・団体 (資料等)	一般企業 (資料・メニュー等)	選挙情報 (名簿・投票用紙・公報)	公共料金明細 (電気・ガス・水道)	点字 名刺
H25年度	16件 77,455枚	31件 43,901枚	15件 167,327枚	35件 265,958枚	印刷 6,944枚	143名 22,548枚
H26年度	20件 67,215枚	56件 144,233枚	16件 59,983枚	31件 218,046枚	印刷 6,940枚	182名 25,779枚
H27年度	16件 72,059枚	42件 40,046枚	20件 275,713枚	62件 31,784枚	5,243枚	177名 24,810枚

④音声版受注製作物（デ→デイジー版、カ→カセットテープ）

	名古屋市（広報なごや・市会だより）	その他名古屋市	施設・団体・一般企業	選挙公報
H27 年度	デ 4,505 枚 カ 919 本	デ 402 枚 カ 1,144 本	デ 101 枚	3 選挙デ 386 枚 カ 258 本

（２）点字技術支援（点字サイン・UV加工等）

	点字案内板・プレート	鉄道駅構内触図案内板	鉄道駅手すり案内板	鉄道駅運賃表	タクシー車内シール	UV加工
H25 年度	4,480 枚	8 駅 12 枚	29 駅 284 本	132 駅 167 冊	107 枚	186 点
H26 年度	4,916 枚	12 駅 28 枚	106 本	45 駅 46 冊	2,160 枚	147 点
H27 年度	2,048 枚	13 駅 16 枚	232 本	2 駅 2 冊	390 枚	1,256 点

5. 利用者及び地域住民との交流事業

10 月 25 日（日）に開催した港区ふれあい広場には職員が実行委員として参加し準備を進めるとともに、当日は同会の協力も得て点字体験・録音体験・バザーを実施した。

11 月 1 日（日）には、愛知県森林公園運動公園にて第 3 回ユニバーサル運動会としてウォークラリーとゲーム交流会を他 2 団体と共催で準備に取り組み、さわやかな一日を過ごした。

6. 関係団体との連携事業

全国視覚障害者情報提供施設協会（全視情協）、日本盲人社会福祉施設協議会、中部ブロック点字図書館等連絡協議会（中部ブロック）、全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会の会員として、委員を派遣するとともに会議、研修会などに積極的に参加・協力をした。

名古屋市視覚障害者協会（名視協）、名古屋盲学校、名古屋市総合リハビリテーションセンター、愛知障害者職業能力開発校、愛知視覚障害者援護促進協会、東海音訳学習会など中部地区の関係団体と密接に連携し、視覚障害者の文化・福祉向上に貢献した。

---

## VIII 瀬古マザー園拠点

---

特別養護老人ホーム	『瀬古第一マザー園』
盲養護老人ホーム	『瀬古第二マザー園』
デイサービスセンター	『瀬古マザー園デイサービスセンター』
〃	『矢田マザー園デイサービスセンター』
短期入所生活介護事業	『瀬古マザー園指定短期入所生活介護事業所』
居宅介護事業	『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所』
ふれあいセンター	『瀬古平成会館』

本年度は介護報酬の減額改定を受け、その対策として各事業での稼働率向上や新たな加算の取得など収入増加への取り組み、経費の見直しを積極的に推進してきた。

その結果、事業によりバラツキはあるものの、新たな加算の算定や稼働率の改善、経費節減等の成果も得られ、全体としては前年度と同水準の収入を維持することができた。

しかし、年度終盤には感染性胃腸炎の感染拡大や容態急変者の続出など予期せぬ事態の影響を受け、稼働率の低下を招いた。感染症対策においては、もっとも重要な初期対応の徹底が今後の課題となった。

各事業の合理化については、長年の懸案事項でもあることから単年度での解決は難しく、施設介護の質的転換を目指した業務マニュアルの抜本的見直しを行っていく中で解決すべく、次年度も引き続き取り組んでいく。

人材育成面では、職員の介護力の底上げや意識啓発を図るため、本年度も介護力向上講習会へ1年を通じて職員を派遣するとともに、外部研修の見直しや職場内研修の充実に力を注いだ。職員能力開発については地道な働きかけが必要であるため、今後も継続して実施していく。

施設整備については、老朽化した業務用洗濯機・乾燥機の更新、自家発電設備の修繕工事、電話設備の更新工事及びキュービクルの改修工事を実施した。また長年懸案となっていた特養棟の壁及び手すりの改修工事について3階フロアを本年3月に実施し、2階フロアについても4月に実施予定である。

### 1 特別養護老人ホーム 『瀬古第一マザー園』

本年度の利用率は、92.7%（前年度比 -1.3%）であった。

上半期は目標値の95%超を維持していたが、下半期に入り、療養型移行・永眠による退所が増加。（年度退所者14件中11件が下半期）退所者数を補填する入所者数を確保することができず、下半期89~90%台にて推移し、年度末決算にて目標値に届かなかった。平成27年4月介護保険改正にて、原則要介護度3以上が受け入れ対象となったことにより、待機者人数が大幅に減ったことも低調の一因と思わ

れる。

要介護度 1～2 の特例入所者の受け入れについては、現在実績はないものの、今後は受け入れも視野にいれ、申込者の実態把握を行う必要がある。また並行して地域包括支援センターからの受け入れ問い合わせや依頼にも随時応じていく。

数年前とは異なり、一部特養の待機者数が減少傾向にあることについて、地域住民には知られていないことも考えられる。ご家族を取り巻く各機関（居宅介護支援事業所・医療機関・老健等）に対し、積極的な営業活動を行い、『特養待機＝数年単位』の印象を払拭することが必要と思われる。

また、障がい者生活支援体制加算（26 単位／日）について、精神手帳 1～2 級保持者も算定が可能となったことから、総合病院だけでなく精神科系病院からの受け入れも積極的に行い、介護力向上講座への取り組みにも掲げる『認知症ケア』に一層力を入れ取り組む。

#### ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成 25 年度	21	22	57	60
平成 26 年度	19	16	60	
平成 27 年度	9	14	55	

※H27 年度退所者：療養型医療機関 6 名、在宅 1 名、死亡 7 名

#### イ 要介護度状況（年度末時点）

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計	平均要介護度
H25 年度	4	8	22	15	8	57	3.3
H26 年度	2	11	23	20	8	60	3.2
H27 年度	2	7	21	18	7	55	3.5

#### ウ 施設利用状況

定員(名)		実施日	延べ利用者数(名)	1 日平均利用者数(名)	利用率(%)
60	H25 年度	365	19,842	54.1	90.6
	H26 年度	365	20,593	54.4	94.0
	H27 年度	366	20,370	55.7	92.6

## 2 盲養護老人ホーム 『瀬古第二マザー園』

前年度と同様に年間を通じて月初の在籍者は定員の 50 名であった。入退所は 3 件のみであり安定した運営であった。待機者も増加し、常時 13 名前後を維持している。

利用者の年齢は平均で0.8歳上がっており、要介護認定を受けている方は、要介護3が1名、要介護2以下で9名と要介護度は全体的にあがっている。入所前に要介護度がついている方が増えてきている。

本年度の取り組みは「個別ニーズに対して専門的な支援の実施」であり、個別支援計画に基づく仕組み作りを実施した。並行してそれぞれの職種で、専門性を高める取り組みや職種間連携のミーティングは機能し定着してきた。これらは、次年度以降も継続する。

利用者の生活面では、今まで同行援護の利用をためらっていた方が定期的に活用するようになり、外出が増えている。また、本人と事業所間での個人契約も広がり、自分でできることは自分で行えるようにサポートをしている。

次年度は、各職種にてさらに介護予防の取り組みを強化し、残存能力を活用できるような取り組みを実施していく。また、地域での交流を深め、地域に開かれた施設を目指す。

#### ア 入退所状況

	年度入所者	年度退所者	期末在籍者	定員
平成25年度	5	5	50	50
平成26年度	6	6	50	
平成27年度	3	3	50	

※H27年度退所者：法人内他施設2名、他施設1名

#### イ 施設利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍者	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	—
入所	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
退所	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3

#### ウ 視覚障害等級別状況

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	非該当	計
平成25年度	35	10	3	0	1	0	1	50
平成26年度	35	13	2	0	0	0	0	50
平成27年度	32	15	2	1	0	0	0	50

#### エ 要介護度状況（年度末時点）

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H25年度	41	1	1	4	3	0	0	0	50
H26年度	42	1	1	3	3	0	0	0	50
H27年度	40	1	1	2	5	1	0	0	50

### 3 短期入所生活介護事業 『瀬古マザー園短期入所生活介護事業所』

本年度の利用率は、80.05%（前年度比 +0.25%）となった。  
一年を通して、ほぼ毎月目標値（75%）を達成。当初予定では年度利用率は 85%を見込んでいたが、平成 28 年 2 月の感染拡大防止に伴う施設都合キャンセルにて当月 35.3%に落ち込んだ結果、最終的には前述の通りとなった。

体調不良者を含めた緊急時の受け入れ、特養空床転換を行うことにより、ショートステイ単体としての利用率は、年度を追うごとに増加傾向にある。また、営業活動に伴い、自社居宅以外からの新規紹介ケースが増えていることも、稼働率向上の一因と思われる。（年度当初の他者居宅率：1 件→年度末：5 件）

ショートステイ定床 4 床という限りがある中、いかに空床利用を積極的に受け入れることができるかが今後も課題となると思われる。また、ソフト面・ハード面双方の環境整備、担当ケアマネジャーへの協力ならびに密な連携、ご家族に対する親身な相談体制等、『顧客を確実にリピーター化するための方策』を講じていきたい。

#### ア 利用登録状況

	登録者	解除者	3 月実利用者※	定 員
平成 25 年度	17	13	12	4
平成 26 年度	11	9	8	
平成 27 年度	8	4	17	

※利用実績のない登録者がある場合、総登録者と一致しない場合がある。

#### イ 要介護度状況（年度末時点）

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
H25 年度	0	0	2	4	2	2	2	12
H26 年度	0	0	0	4	2	2	0	8
H27 年度	0	0	2	7	6	2	0	17

#### ウ 施設利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率(%)
4	H25 年度	365	1,035	2.8	70.9
	H26 年度	365	1,165	3.2	79.8
	H27 年度	366	1,172	3.2	80.0

## 4 高齢者デイサービス

### (1) 『瀬古マザー園デイサービスセンター』

年間延べ利用者数 6,102 名(前年度 5,706 名)、1 日平均利用者数 19.7 名(前年度 18.5 名)となった。

上半期は 1 日平均利用者数約 19 名で留まったが、夏季に新規利用者が増加し、下半期は多くの月で 1 日平均利用者数 20 名を超え、年間収入予算を達成できた。居宅介護支援事業所への営業活動に関しても、年間 192 件の訪問を実施することで冬季も少数ではあるが、新規利用者の紹介をいただくことができた。

サービス面に関して、利用者がよりゆったり入浴を楽しめるよう、業務を見直し、以前より入浴時間を確保できるようになった。また、本年度でマザー園の特色を活かした歩行訓練の導入に向け準備を整えており、次年度より実施していく。

次年度は、歩行訓練を導入するとともに、高齢者の個々のニーズに応えるため、デイサービスでの 1 日の過ごし方を利用者自身が選択していく仕組みづくりも同時に進めていく。

また、年間稼働率 70% (1 日平均利用者数 21 名) 以上を目指し、外部への広報活動も本年度以上に行い、新規利用者の獲得を目指す。

#### ア 利用登録状況

	登録者	解除者	3 月実利用者※	定 員
平成 25 年度	7	7	48	30
平成 26 年度	9	4	48	
平成 27 年度	17	10	49	

※利用実績のない登録者がある場合、総登録者と一致しない場合がある。

#### イ 要介護度状況 (年度末時点)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
H25 年度	2	8	16	12	6	3	1	48
H26 年度	3	5	12	16	10	1	1	48
H27 年度	3	6	11	19	8	2	0	49

#### ウ 利用状況

定員 (名)		実施日	延べ 利用者数(名)	1 日平均 利用者数(名)	利用率(%)
30	H25 年度	307	5,739	18.7	62.2
	H26 年度	308	5,706	18.5	61.7
	H27 年度	309	6,102	19.7	65.8

(2) 『矢田マザー園デイサービスセンター』

年間延べ利用者は5,715名（前年度6,238名）、1日平均利用者数18.5名（前年度20.3名）と大幅に減少し、収入的にもおおきな落ち込みとなった。要因としては夏場から続けて入院者が出ており、在宅生活の継続が困難になったことが挙げられる。

次年度は、デイサービスを利用することでより活動的になり、健康面も向上し在宅生活が維持できるような取り組みを進める。利用者自身が選択する機会を増やすことでより楽しみが増えるようサービス提供するとともに、より在宅生活を意識した機能訓練を行い、利用者の確保に繋げる。

ア 利用登録状況

	登録者	解除者	3月実利用者※	定員
平成25年度	24	27	64	30
平成26年度	12	10	62	
平成27年度	7	14	52	

※利用実績のない登録者がある場合、総登録者と一致しない場合がある。

イ 要介護度状況（年度末時点）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
H25年度	4	13	13	18	8	5	3	64
H26年度	2	10	17	23	2	5	3	62
H27年度	2	10	10	18	4	2	6	52

ウ 施設利用状況

定員(名)		実施日	延べ利用者数(名)	1日平均利用者数(名)	利用率(%)
30	H25年度	307	6,445	21.0	69.9
	H26年度	308	6,238	20.3	67.5
	H27年度	309	5,715	18.5	61.7

5 居宅介護支援事業 『瀬古マザー園指定居宅介護支援事業』

ケアプラン作成件数は1,036件（前年度888件）で前年比116%と順調に件数を伸ばすことができた。内訳として要支援27.7%、要介護72.3%と要介護者が前年度に比べて12.3%アップしている。

サービス事業者が偏った場合に適用される特定事業所集中減算については、幅広く事業所を活用し割合や件数等の一定要件をクリアし減算のない状況を維持した。今後利用の調整も行いながら集中減算が適用されないようなサービス調整を進める。

次年度は、人員配置の変更があり新体制となることから、介護支援専門員が同じようなサービスの提供ができるような体制づくりを目指す。



6月から開始する新しい総合事業についても広くアンテナを張っていくことで地域との関係の強化を図り、利用者サービスの向上に繋げていく。

#### ア ケアプラン作成件数

	支援	介護	合計（件）
H25年度	204	544	748
H26年度	268	620	888
H27年度	287	749	1,036

## 6 ふれあいセンター 『瀬古平成会館』

本年度は会館利用者の声をもとに、1階和室の表替え、冷蔵庫、ガスレンジ、2階会議室のマイク設備等、会館の備品設備更新を行った。28年度も引き続き備品の更新を行っていく。

地域でコミュニティセンターとしての役割も担い年々施設利用者が増加し、対前年度10%余り収入増となった。引き続き、会館の維持管理、運営について利用基準に基づいた適切な運用に心がけ公益事業としての役割を果たす。

#### ア 施設利用状況

	延べ利用団体数	延べ利用者数	実利用団体数
H25年度	456	6,307	141
H26年度	348	8,378	134
H27年度	389	8,680	122

## 7 ボランティア受け入れ状況

### 学校関係

団体名	1回あたり 参加人数	活動日	活動内容	年間延 活動人数
守山西中学校	132名	8月下旬	入所者・利用者とのふれあい ジャズアンサンブル披露	225名
守西保育園	20名	6、10月	歌の披露、利用者とのふれあい	40名
高等学校（夏季）	1名	8月	夏期高校生ボラ活動	12名

## 団体関係

団体名	1回あたり 参加人数	活動日	活動内容	年間延 活動人数
グループあすなろ	4～6名	毎週金曜	盲養護入所者への朗読	約102名
瀬古小PTAママさんコーラス	12名	12月	ハンドベル・合唱の披露	12名
愛知県理容生活衛生同 業組合（守山支部）	5～6名	毎月第一水曜	理髪奉仕（有償）	34名
点字ボランティア	約3名	毎月1～2回	毎月の行事予定・献立の点訳	48名

## 個人

項目	活動日	活動内	年間延活動人数
書道指導	月1回	書道クラブ（瀬古入所者）	11名
書道指導	月1回	書道教室（矢田利用者）	12名
俳句指導	月1回	俳句クラブ	12名
音楽指導	月2回	音楽クラブ	23名
陶芸指導	月1回	陶芸クラブ	12名
時計店	月1回	入所者時計修理	12名
音楽療法	月2回	特養入所者・デイ利用者へ音楽療法（有償）	24名
行事付き添い	随時	入所者外出行事付き添い	53名
裁縫	随時	養護・特養の繕い物作業	18名
個別訪問話説 ボラ	随時	個別訪問、話し相手等、入所者対応	2名
盆踊り指導	4月～8月	ダンスクラブ(1回当たり約4～5名)	27名
演奏会	月1～3回	瀬古デイ・矢田デイ・養護	3名
ふれあい祭	11月	地域交流会にて	48名

ボランティア総数（延べ人数）	約730名
年間1日あたり人数	約2.0名